

## 宇木汲田貝塚 : 1966・1984年発掘調査の再整理調査 報告書

宮本, 一夫  
九州大学大学院人文科学研究院 : 教授

松本, 圭太  
九州大学大学院人文科学研究院 : 学術研究員

高宮, 広土  
鹿児島大学総合科学域総合研究学系 : 教授

上條, 信彦  
弘前大学人文社会科学部 : 教授

他

<https://hdl.handle.net/2324/4372000>

---

出版情報 : 2021-03-25. 九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室  
バージョン :  
権利関係 :

# 第4章 宇木汲田貝塚出土土器

宮本一夫

## 1. はじめに

本再整理調査は、黒川式・夜臼式など従来縄文晩期に属すると考えられていた土器と、弥生前期である板付Ⅰ・Ⅱ式を対象として行った。今日、夜臼式は弥生早期に区分されている。さらに、Ⅳ層以上には弥生時代中期の須玖式などが認められる。これらは宇木汲田遺跡の甕棺墓群に相当する時期の遺物であるが、貝塚層とは関係しない時期であるので、須玖式など弥生中期以降の土器は整理対象とはしなかった。対象とした土器資料は、型式認定および図面化できるものをすべて掲載することとした(表4)。

本章では、まず1966年の日仏合同調査で発見された土器を説明する。その後、1984年発掘資料を最下層のⅪ層から順に層位的に土器内容を説明する。Ⅲ層は弥生時代中期の包含層であるが、その中に該当時期の土器資料が認められたので、それらを掲載した。その後、層位が不明ないし、遺構出土は注記で分かるがその遺構の年代が不明なものを掲載した。また、1984年調査では土偶や紡錘車などの土製品が出土している。それらをまとめて掲載した(表5)。最後に「展示資料」と記載されて一つの木箱にまとめて収蔵されていた資料で、遺跡名の記載はないものの、土器の特徴や胎土の特徴から

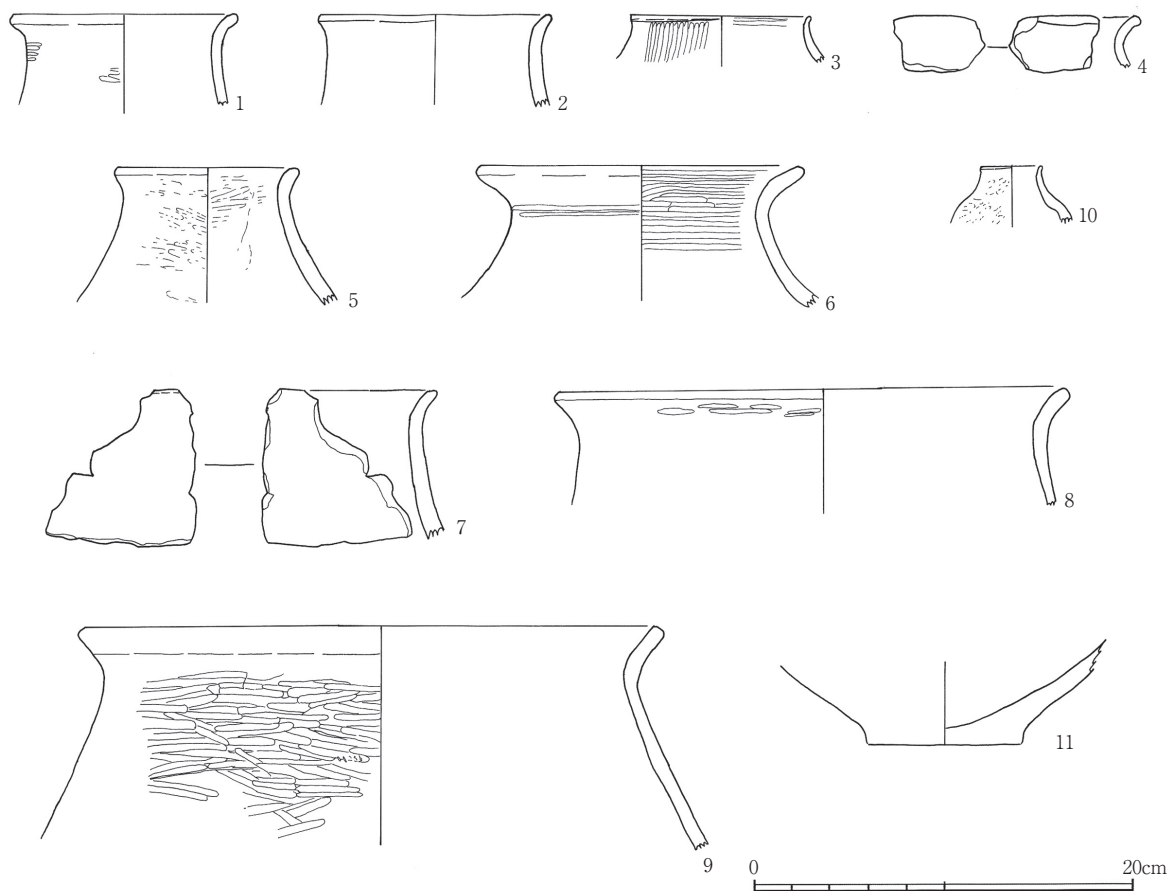


図24 日仏合同調査出土土器(1)

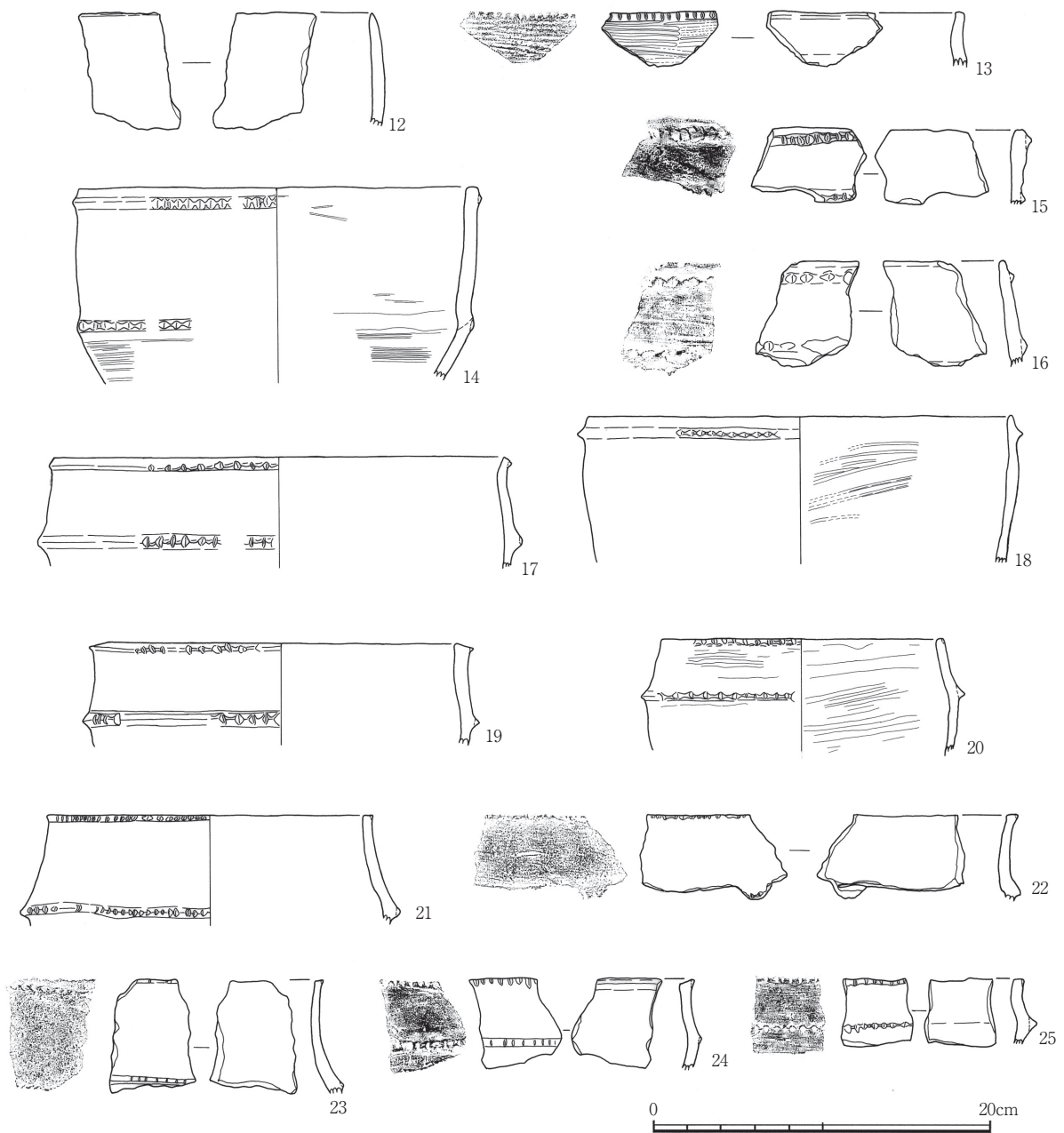


図25 日仏合同調査出土土器（2）

判断して、宇木汲田貝塚の土器と考えられるものを「その他」として掲載した（表6）。木箱の様相からは、1966年の日仏合同調査資料ないしその前年の1965年に行われた試掘調査の資料と想定される。あるいは、土器に注記がないことから、さらに古い1930年代に行われた松浦史談会の発掘資料であるかもしれない。参考資料として、最後に報告することとした。

## 2. 日仏合同調査（1966年調査）資料

1966年の日仏合同調査資料は、H6区、I6区、J6区、G4・G6区からの出土である。黒褐色土層と貝層からの出土であるが、この地区の貝層はⅥ層の板付Ⅰ・Ⅱ式段階のものであり、江辻SX1・夜白

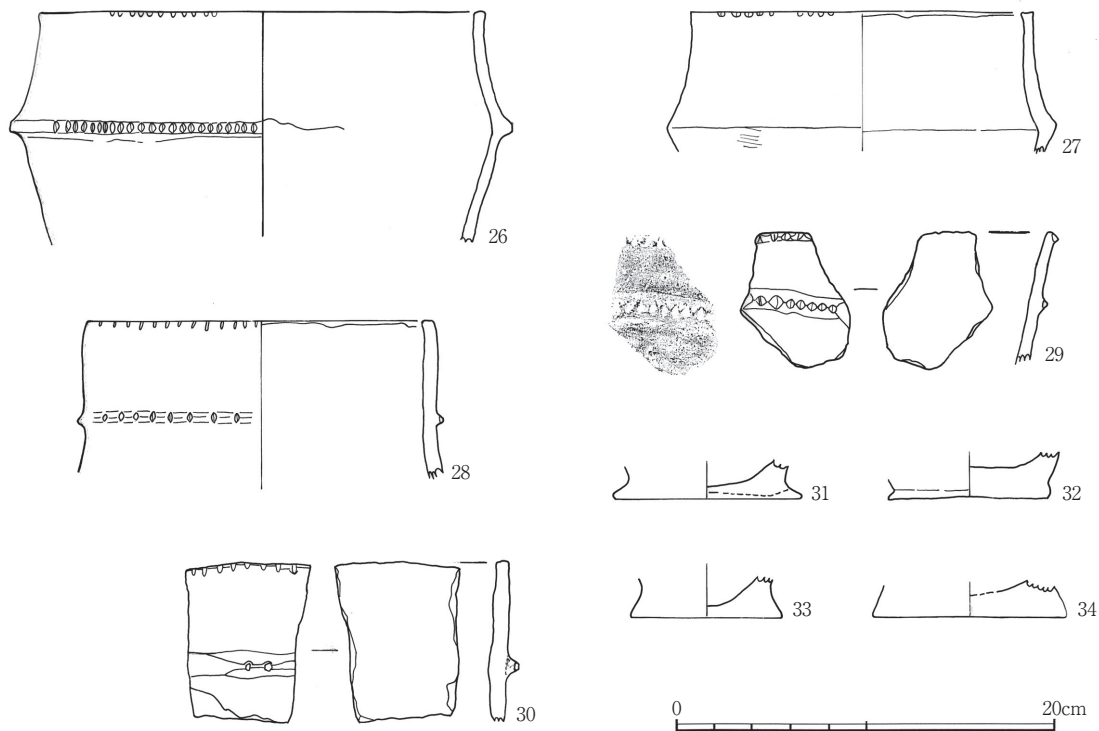


図26 日仏合同調査出土土器（3）

式と板付Ⅰ・Ⅱ式が混在していると考えられるところから、層位を分別することなく、器種や型式で土器内容を説明していく（図24～28、図版5～7-1）。

1～11は壺である。1～5が小型壺、6が中型壺、7～9が大型壺である。7～9の大型壺には外面に丹塗りが施されている。11は中型ないし大型壺の底部である。1・2・7は頸部からまっすぐ立ち上がり口縁端部が若干外反するものである。3は屈曲した頸部から口縁端部が若干外反するものである。これらは夜臼Ⅰ式の壺と考えられる。1は口縁外面が横方向の研ぎが施されるのに対し、3は縦方向の研ぎが施される。4・5・8・9は屈曲した頸部から湾曲しながら外反する口縁をもつ夜臼Ⅱ式である。6は、こうした形態の口縁部の肥厚した段部が沈線文となったもので、板付Ⅱa式である。10はミニチュアの壺であり、板付Ⅰ・Ⅱ式段階のものであろう。

12は口縁が内湾する深鉢。13は直口する口縁で外面に条痕調整を持ちながら口唇端部外面が刻まれる板付祖型甕である。朝鮮半島の無文土器の甕と縄文系深鉢の折衷タイプである。

14～30は刻目突帯文土器深鉢である。14～17は口唇から若干離れた位置に刻目突帯が貼られるものである。これらの刻目は、15のD字形刻目を除いて、菱形を呈する共通の特徴を持つ。14～17は「く」の字形口縁をなす2条突帯、18は寸胴型で1条突帯をなす。これらは夜臼Ⅰ式である。

19～30は夜臼Ⅱ式の刻目突帯文土器深鉢である。19は「く」の字形口縁の2条突帯であるが、口唇に接して突帯が貼り付けられ刻目もD字形に変化している。20～26は「く」の字形口縁の2条突帯の刻目突帯文土器深鉢であるが、口縁の突帯を有せず口唇端部に直接刻目が刻まれるもので、21がD字形刻目であるのを除けば、すべてV字形刻目に変化している。27は「く」の字形口縁でありながら屈曲部に突帯を持たないもののように図示されているが、屈曲部の突帯文は本来存在しており、器面が摩滅して残っていない。28～30は同じく口唇のV字形刻目が施されるが、「く」の字形口縁が直線状に立ち上がるように変化している。28～30は、21～27の屈曲部が直立するように変化したものと



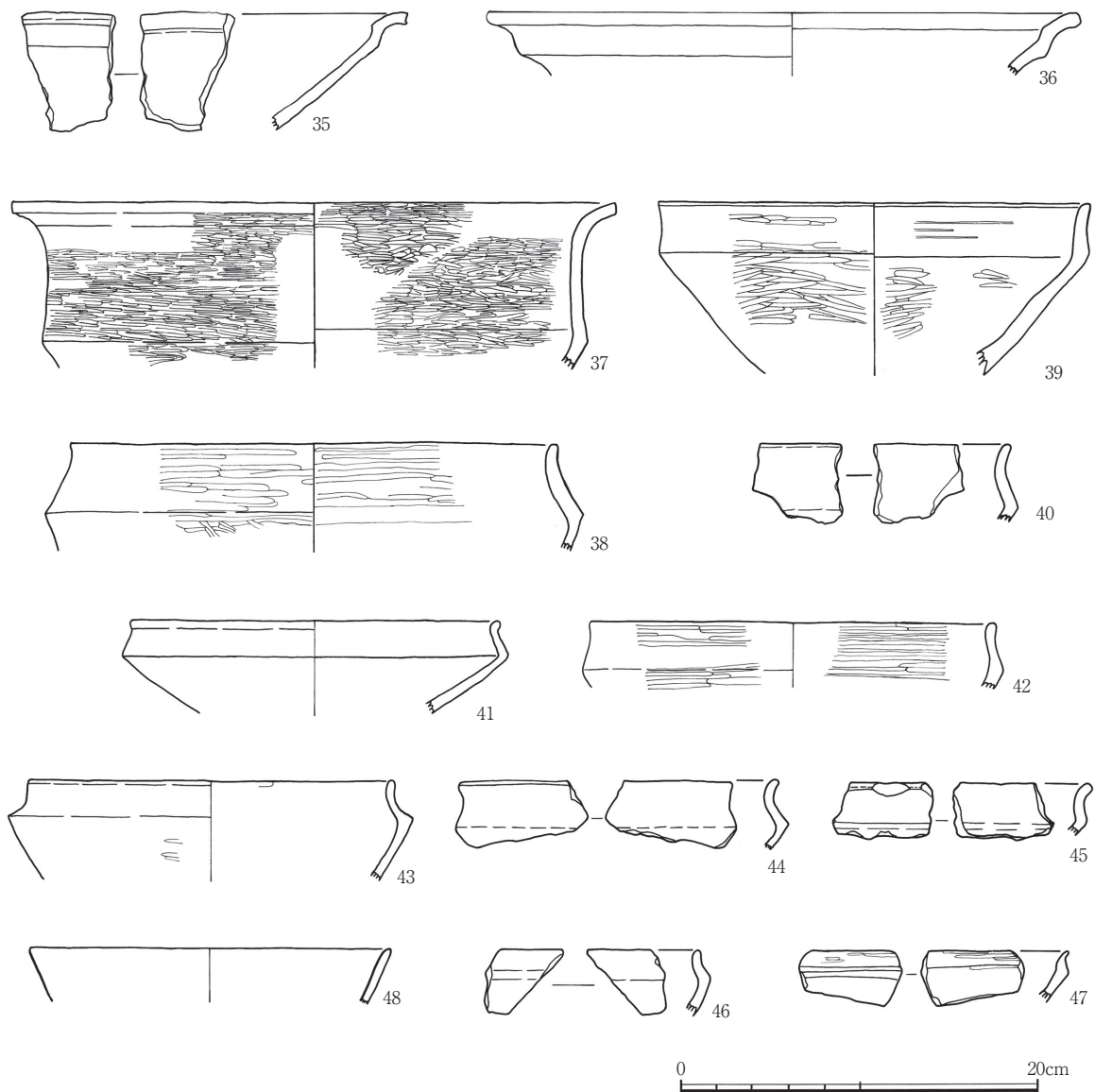


図27 日仏合同調査出土土器（4）

考えられる。このような口縁突帯を持たず刻目だけが施された2条突帯刻目突帯文深鉢は、唐津地域の地域的な特徴となっている（横山・藤尾1986）。また、夜臼Ⅱ式の刻目突帯文土器深鉢は、19、20～27、28～30というように型式変化して行き、19が夜臼Ⅱa式、その他が夜臼Ⅱb式である。

31～34はこれら深鉢の底部である。

35～47は浅鉢である。35・36は屈折して外反する浅鉢。37は頸部が直線的に立ち上がり、口縁端部が外反するもの。38は逆「く」の字形口縁を呈し、やや長めに立ち上がり口唇がわずかに外反するもの。これら35～38は江辻SX-1段階に相当する浅鉢である。39～47は逆「く」の字形口縁の浅鉢であるが、口縁の屈折部から口唇までの長さで、4種類に区分できる。まず大きく39・40、41～44、45～47の3種類に分けられ、次第に口縁屈曲部が短くなるように型式変化すると考えられる。39・40は夜臼Ⅰ式、41～47は夜臼Ⅱ式である。夜臼Ⅱ式のうち、41～44が夜臼Ⅱa式、45～47が夜臼Ⅱb式である。さらに、45・46が夜臼Ⅱb式古段階、47が夜臼Ⅱb式新段階に分けることができる。このように、刻目突帯文土器深鉢と同様に夜臼Ⅱ式が3段階に区分できる。48は鉢であり、夜臼式段階のもの

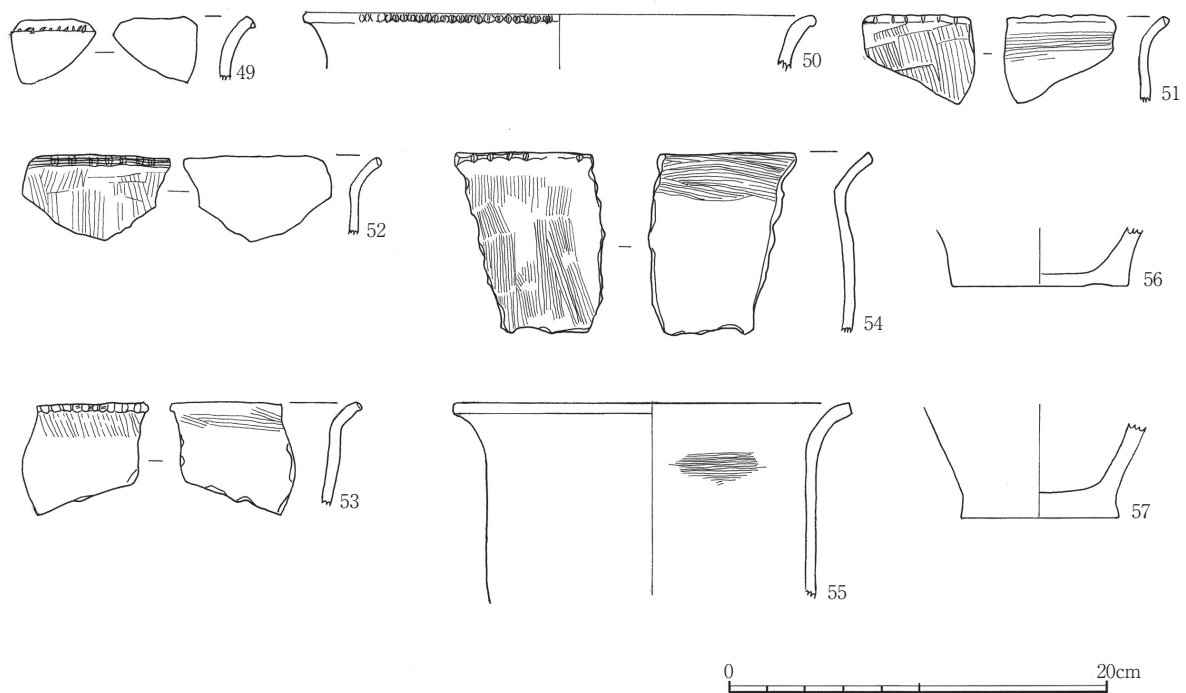


図28 日仏合同調査出土土器（5）

であろう。

49は、口縁が直口気味に外反し口唇外面に細かな刻み目が施されるもので、板付祖型甕である。50～54は板付Ⅰ式甕である。51～54は口縁端部が屈折気味に外反するものであり、口唇部に刻目が施される。51～53は口唇直下の外面に縦方向のハケ目が施される。50は口縁直下の外面に縦方向の板ナデが施されている。こうした縦方向の板ナデやハケ目も、これら板付Ⅰ式甕の特徴であり、50～53は板付Ⅰa式である。一方、54は口唇外面端部のみに刻目が施され、さらに口縁端部が湾曲気味に外反する板付Ⅰb式である。55は、さらに口縁が湾曲するように外反し口唇に刻目が施されない板付Ⅱa式である。56・57はこれら板付Ⅰ・Ⅱ式甕に伴う底部である。

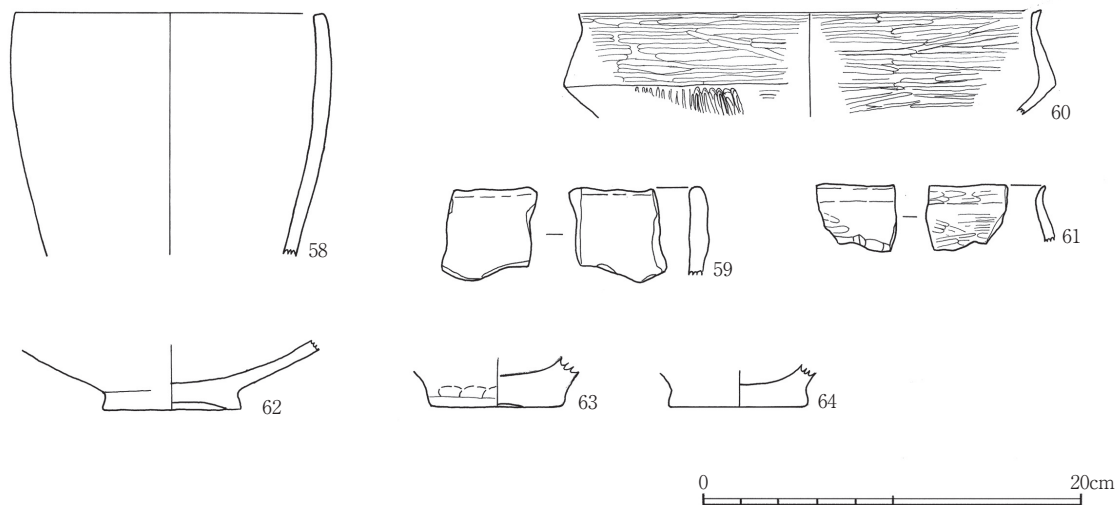


図29 1984年調査 XI 層出土土器

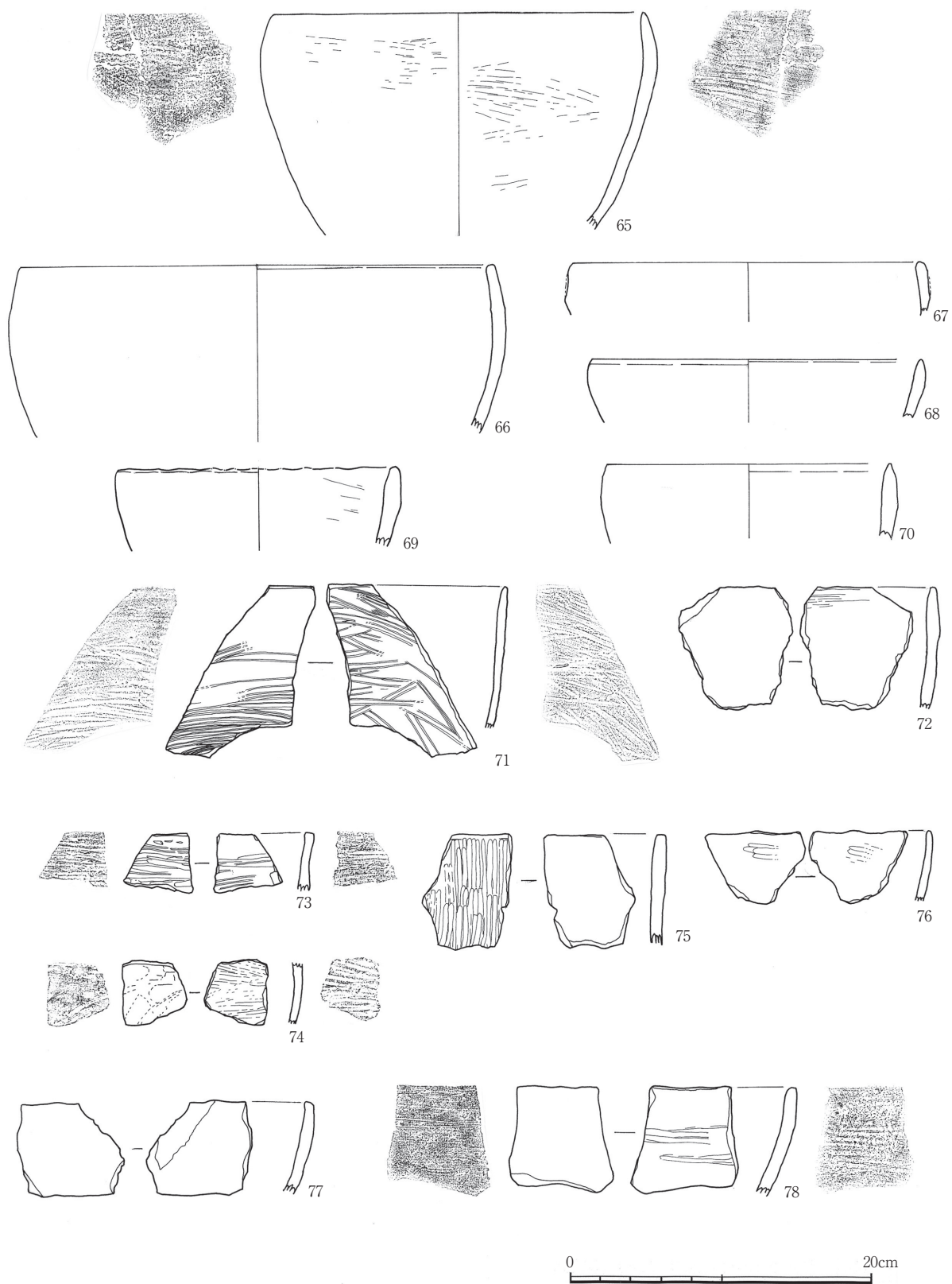


図30 1984年調査X層出土土器(1)

### 3. 1984年調査資料

1966年調査時に炭化米がG10区で発見され、その西側では夜白単純層の貝層であるX・IX層が分布

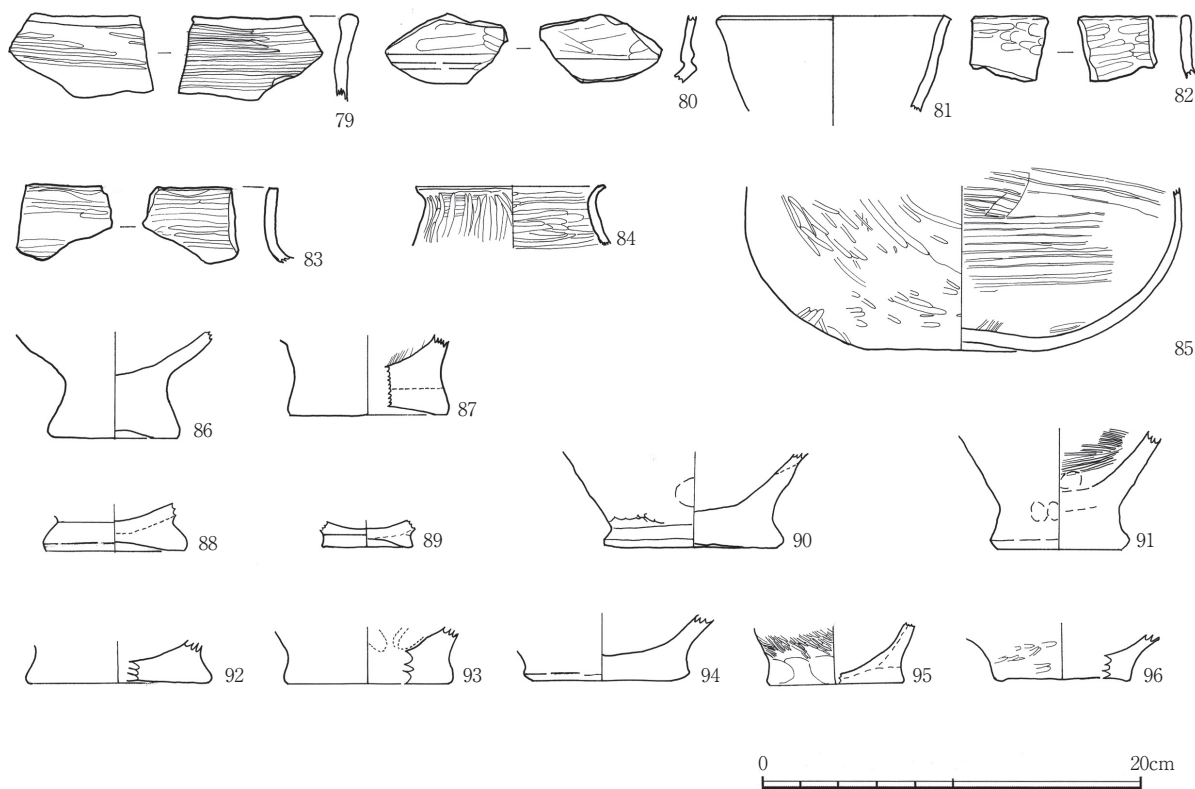


図31 1984年調査 X層出土土器 (2)

しており、1984年の発掘ではそこにトレンチが設定された。夜白単純層の貝層が分布する F6～F8区、G6～G9区、ならびに隣接する H6・H7区、I5・I6区、J5・K5区を中心に遺物が出土している。最下層の XI層から上層の III層まで、層位ごとに土器の記述を行って行きたい (図29～51、図版3・4・7-2～18-1)。

(1) XI層 (図29)

58・59は口縁端部が内湾気味の深鉢である。内外面の器面調整はナデ調整である。60～62は浅鉢である。60・61は、逆「く」の字形口縁を呈し、口縁屈折部からやや長めに立ち上がり口縁端部が若干外反する江辻 SX-1段階の浅鉢である。ともに口縁部は横方向の研ぎが丁寧に施されている。62は浅鉢の底部である。63・64は深鉢の底部である。壺や刻目突帯文土器深鉢は認められず、浅鉢の型式から、本層位は江辻 SX-1段階のものと判断される。

(2) X層 (図30・31)

65～78は深鉢である。65～67は口縁が内湾気味の深鉢。65は内外面に条痕調整が認められる。68～73・75～78は口縁が直立気味の深鉢である。71・73・78には条痕調整が認められ、75は、二枚貝の条痕調整が縦方向になされている。76には横方向の研ぎが認められ、鉢であるかもしれない。この他の深鉢の器面調整は、すべてナデ調整である。74は深鉢の胴部片である。X層には刻目突帯文土器深鉢が今のところ認められないところから、74は条痕調整がなされた深鉢の胴部片である。74の外表面は剥落していたが、内面の条痕地には付着炭化物が認められた。この炭素年代測定をしたところ、 $2\sigma$  層年代範囲で937calBC-836calBC (91.5%) の較正年代測定値を得た (宮本2018)。

79・80は横方向の研ぎが認められる浅鉢である。79は口縁端部の内面がやや突出する特徴を持ち、胴部で屈曲する浅鉢。80は胴部屈曲部に沈線が施された浅鉢。81は鉢である。

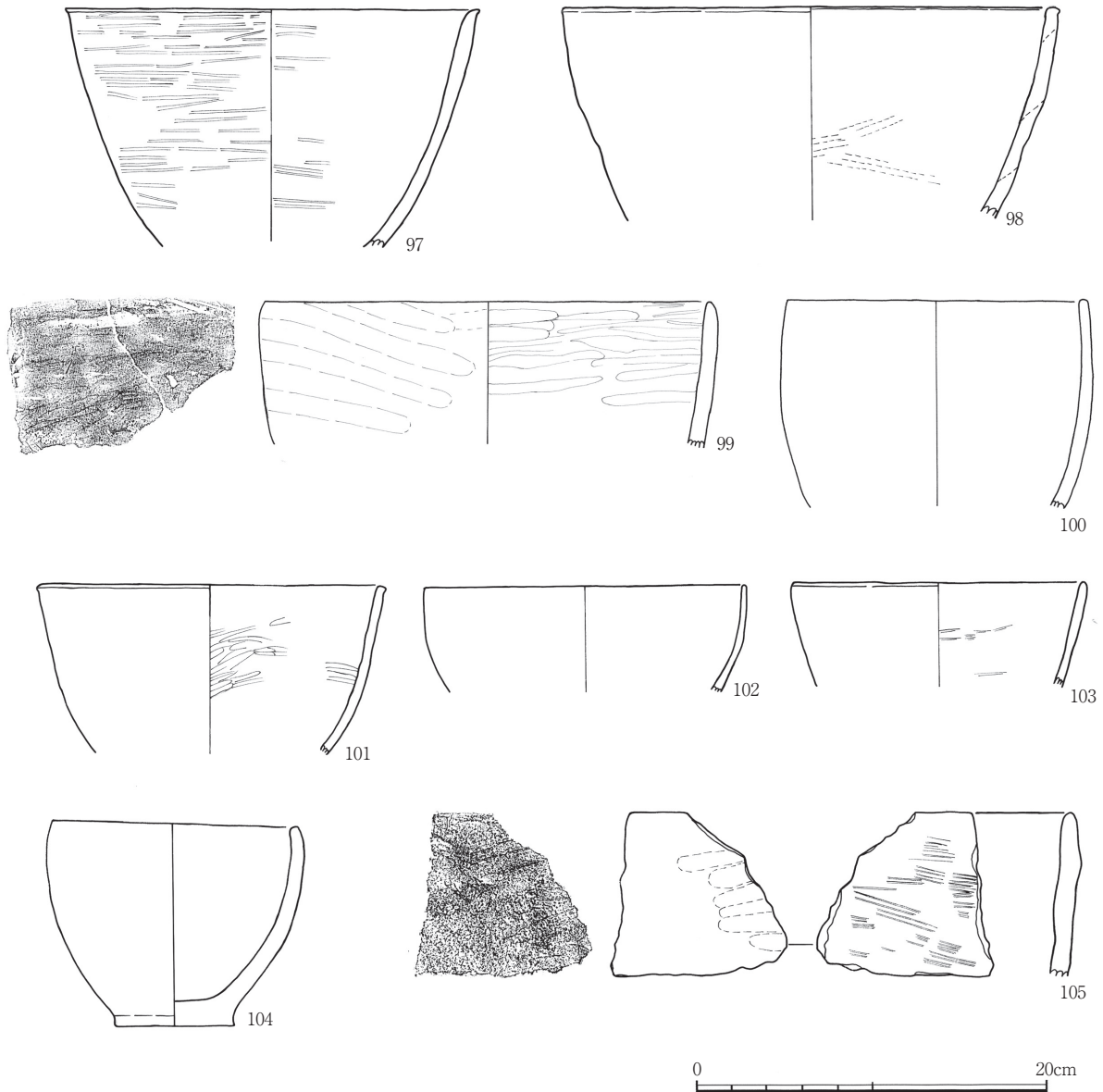


図32 1984年調査 IX 層出土土器 (1)

82～85は壺である。82・83は口縁が短く直立する壺で、横方向の研ぎが施される。84は胴部から内湾するように屈曲し、口縁端部で外反する形態の壺である。外面は横方向の研ぎの後、縦方向の研ぎが施されている。こうした器形や縦方向の研ぎの特徴は、日仏合同調査資料の3の壺と類似する。縦方向の研ぎは、縄文系統とする考え方（中園1994）もあるが、端野晋平も述べるよう（端野2018）に、口縁部の形態に応じて朝鮮半島でも北部九州でも縦方向の研ぎが用いられる。85は胴部から底部にかけての破片であるが、丸底の底部を外側から押して平底化したものである。外面は研ぎ調整が施されているが、内面は横方向の巻貝による条痕調整が施されている。82～85は、北部九州に壺が出現する夜臼Ⅰ式段階の壺である。85は朝鮮半島無文土器の壺の形態的特徴を示しながらも、内面が縄文系統の条痕調整が施されるなど、無文土器系統と縄文系統の折衷的な様相を示している。

86～96は底部片である。86～95は底部の外面端部が外に張り出すもので、その著しい86から余り目立たない95までの形態差が認められる。91・95には条痕調整が施されている。これらは江辻SX1・夜臼Ⅰ式の深鉢の底部である。96は外面に研ぎ調整が残っており、内外面に丹塗りが施された壺の底



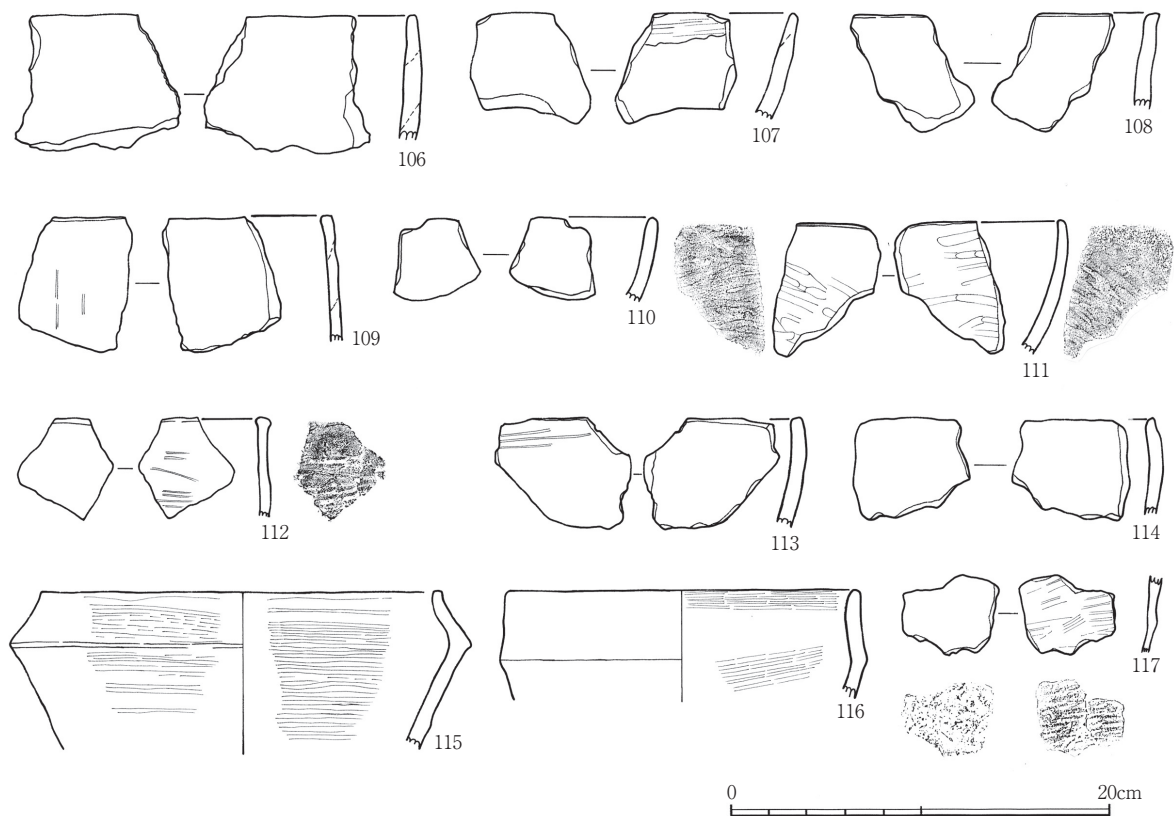


図33 1984年調査 IX 層出土土器 (2)

部である。

これら X 層では、全体的な土器量が少ないためか、刻目突帯文土器深鉢が検出されていないが、壺が伴出することや浅鉢の形態からも、X 層は夜白 I 式段階と考えることができる。

### (3) IX 層 (図32~39)

97~117は深鉢である。97~112口縁が直口する深鉢である。104は口縁が内湾気味であり、小型であることから鉢に属するかもしれない。102も器壁が薄手で鉢に属する可能性が高い。97は内外面に、113は外面に、101・103・112は内面に条痕調整が器面調整に用いられている。98は内面の条痕調整がナデ消されている。99と105~107は、土器外面に指ナデ調整が施されている。105・107も内面に条痕調整が施されナデ消されている。その他の深鉢の器面調整は、ナデ調整である。113・114は口縁が内湾する深鉢。115・116は頸部が屈折する屈曲形の深鉢である。ともに条痕調整が施されている。111は内外面に研ぎが認められ、鉢である可能性がある。117は深鉢あるいは刻目突帯文土器深鉢の胴部片である。内面にのみ条痕調整が施されているが、ここに付着炭化物が認められた。この炭素年代を測定したところ、 $2\sigma$  暦年代範囲で843calBC-794calBC (95.4%) という較正年代測定値が得られた(宮本2018)。

118~152は刻目突帯文土器深鉢である。118~131は、口唇からやや離れたところに刻目突帯を貼り付けるもので、118~130は頸部が屈曲形で2条突帯をなすのに対し、131は寸胴形で1条突帯をなす。これらの刻目は菱形を呈する夜白 I 式である。119~124、127、131には条痕調整が施されている。

132~134は口唇に接して刻目突帯文が施される夜白 II a 式である。これらの刻目は、134が菱形である以外は D 字形に変化している。135~138は、口唇に接する突帯を有せず、口唇を直接刻むものであるが、その刻目は V 字形をなす夜白 II b 式である。135・136は頸部が屈曲するが、137・138は





図34 1984年調査 IX 層出土土器 (3)

口縁部が直線状に立ち上がる器形に変化している。132～138の頸部屈曲部の突帯の刻目はD字形刻みであり、口唇部の刻みと形態を異にしている。135～138の口唇に突帯を有さない刻目突帯文土器深鉢は、唐津型甕とも呼ばれる唐津地域の地域的特徴を示している（横山・藤尾1987）。これら夜白Ⅱb式は、135・136の頸部屈曲部を持つものから、137・138の屈曲部がなくなり直立するものへと型式変化したと考えられる。前者が夜白Ⅱb式古段階、後者が夜白Ⅱb式新段階と捉えることができる。

139～152は刻目突帯文土器深鉢の頸部屈曲部の2条突帯部分である。139・140は突帯の刻目が菱形

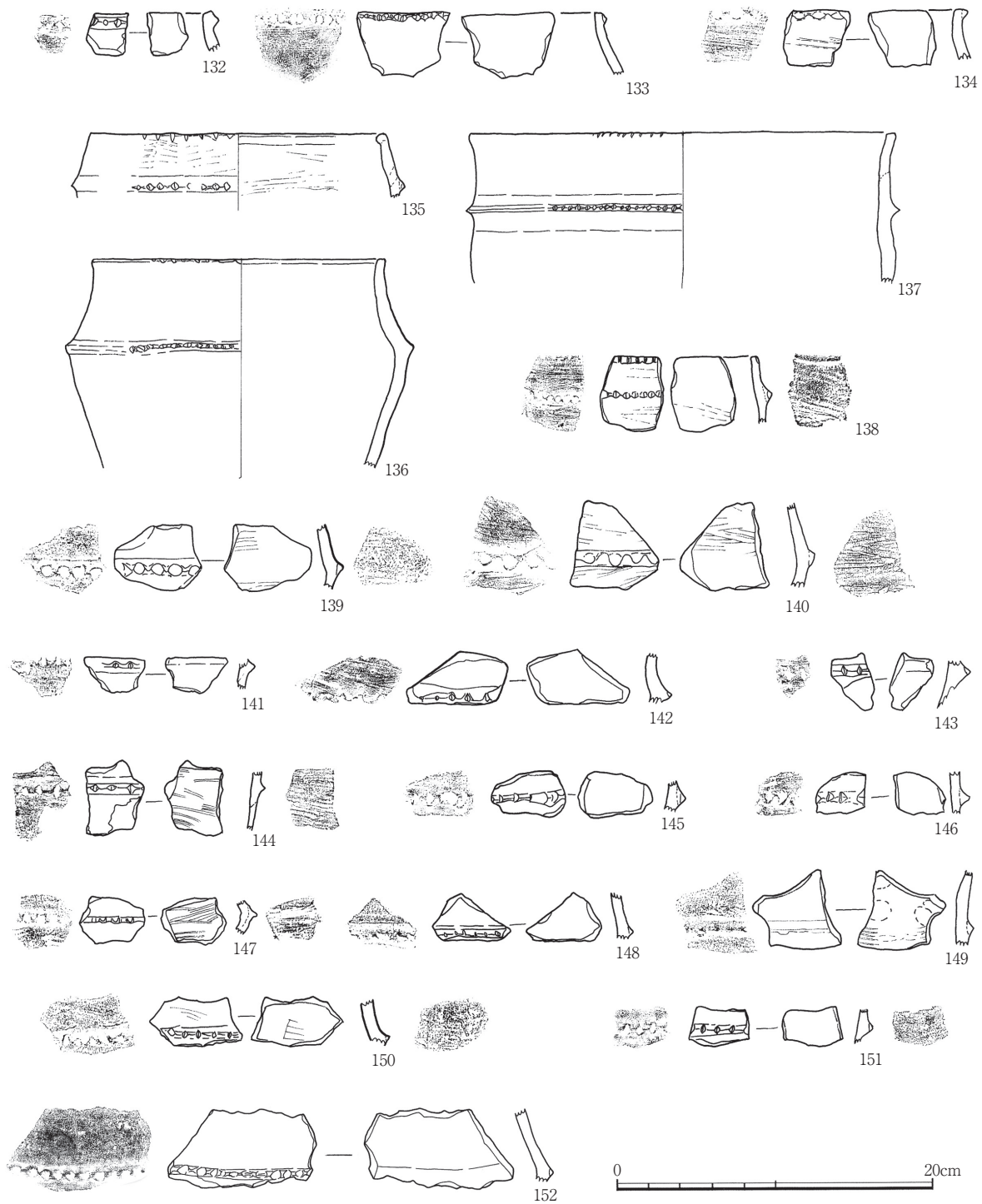


図35 1984年調査 IX 層出土土器 (4)

をなし、夜白Ⅰ式である。一方、突帯の刻目がD字形をなす141～148・150～152は夜白Ⅱ式である。149は屈曲部の突帯にV字形刻目が施されていたが摩滅している。149は、頸部の屈曲が直立化した段階であるところから、夜白Ⅱ式の最も新しい段階である夜白Ⅱb式新段階の刻目突帯文土器深鉢と考えられる。

153～172は口唇部に刻目を持つ板付祖型甕の系統を引く深鉢である。153～166・168～172は口縁が直口ないしやや外反するもので、156を除き、刻目は口唇部の外端部に刻目が施される。156は口唇に菱形の刻目が施されるもので、板付祖型甕である。157～163は、刻目が口唇外端部に施され、156の

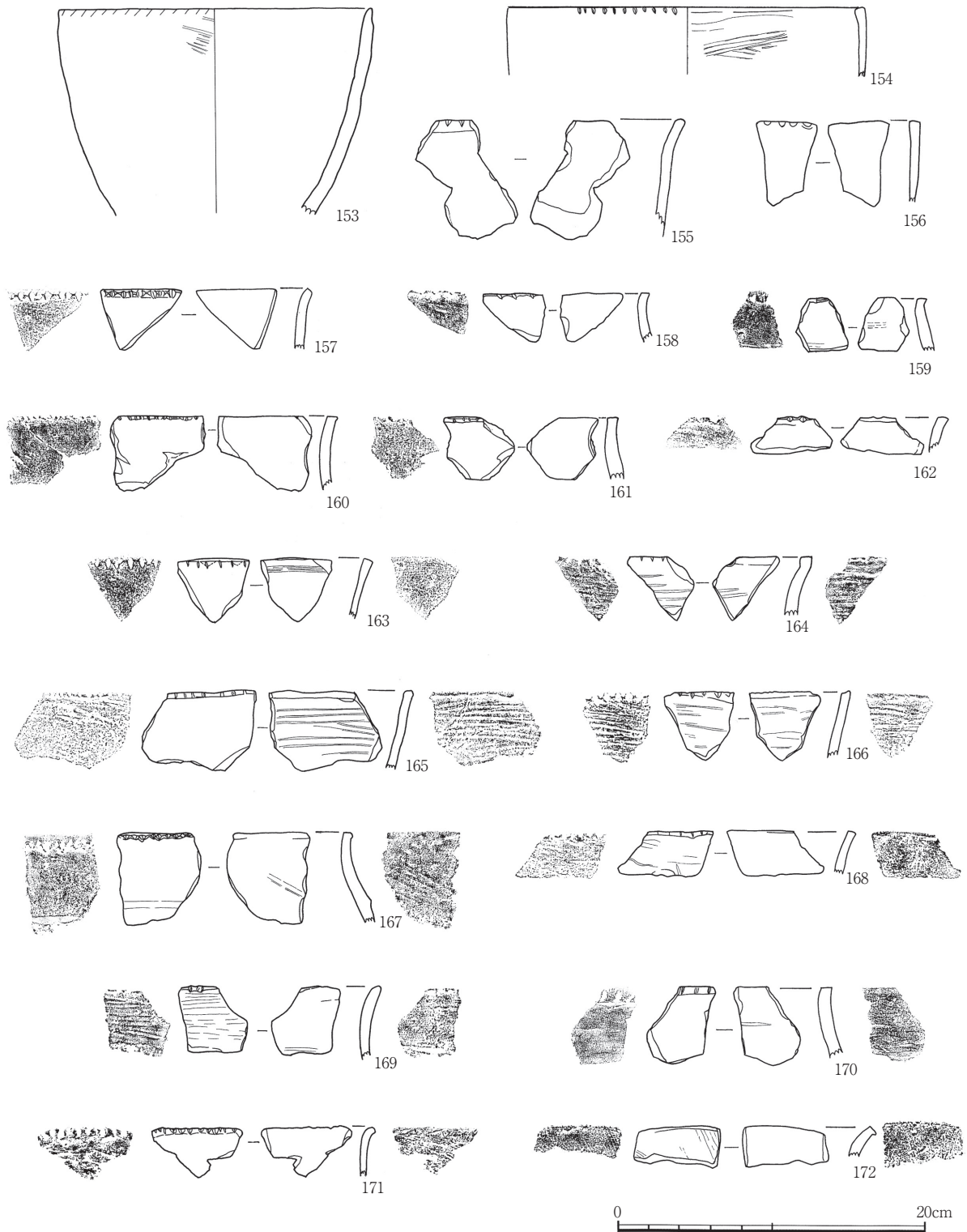


図36 1984年調査 IX 層出土土器 (5)

ような板付祖型甕が、在地的に変化した段階の板付祖型甕である（藤尾2009）。153・154、164～166、168・169には条痕調整が施されており、縄文系の深鉢に板付祖型甕の口唇刻目が施される折衷的な様相を示している。171は口唇に刻目を持ち外面に板ナデが施される板付祖型甕。172は口唇に刻目を持たないが外面にハケ目が施されている点では、無文土器系の板付祖型甕に類似したものであると考え

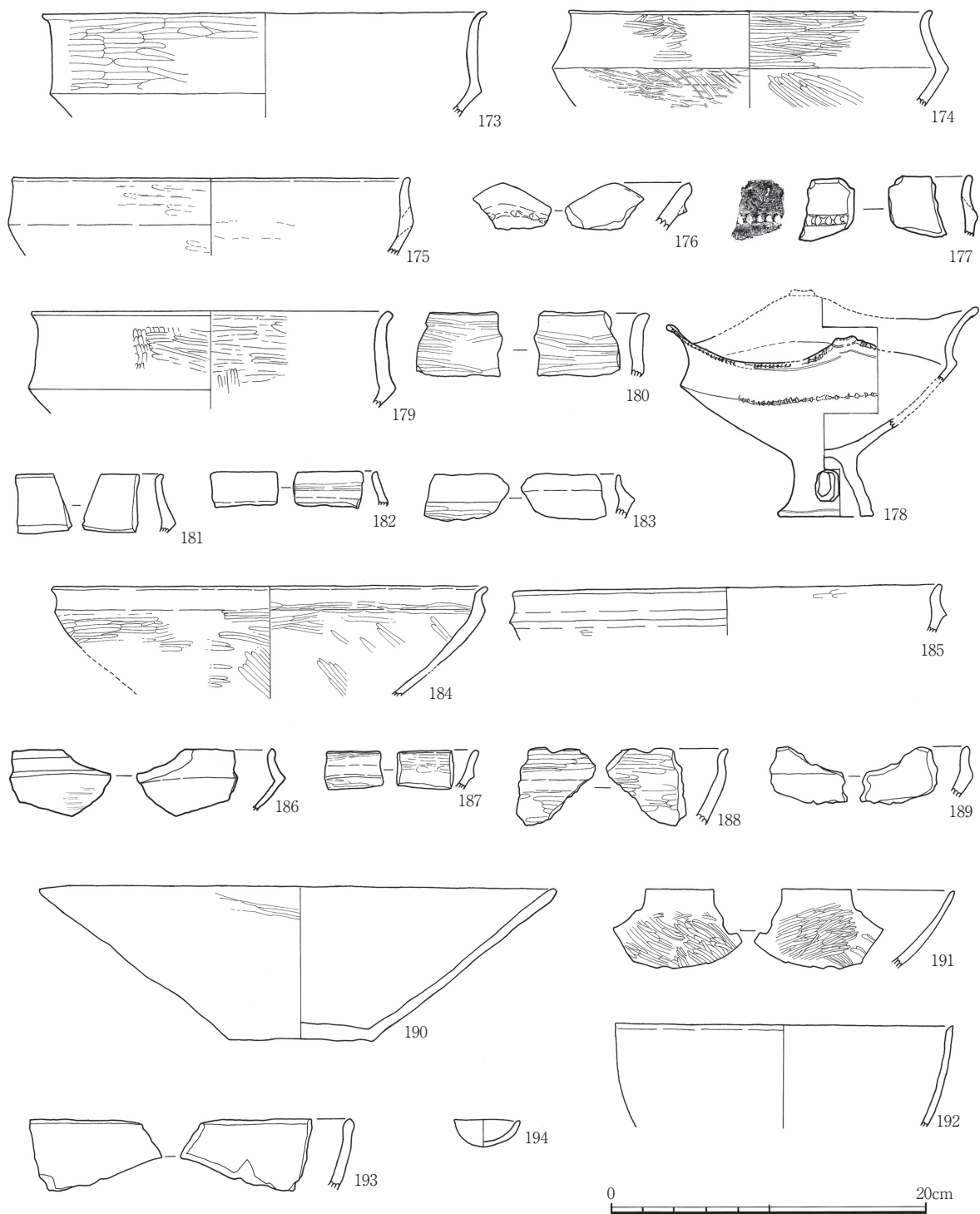


図37 1984年調査 IX 層出土土器 (6)

られる。なお、167は頸部に1条の沈線文が施され、口唇端部にかすかな刻目が施された刻目突帯文土器深鉢であろう。屈曲部の突帯が消失し、屈曲部も直立状に近いものに変化し、さらに口唇部の刻目もV字形刻目であり、夜臼Ⅱb式の刻目突帯文土器深鉢の中でも型式学的には新しいものと言える。夜臼Ⅱb式新段階の刻目突帯文土器深鉢の一種と考えられる。

173~190は浅鉢、191・192・194は鉢である。173・174・179は口縁が逆「く」の字形を呈するが、



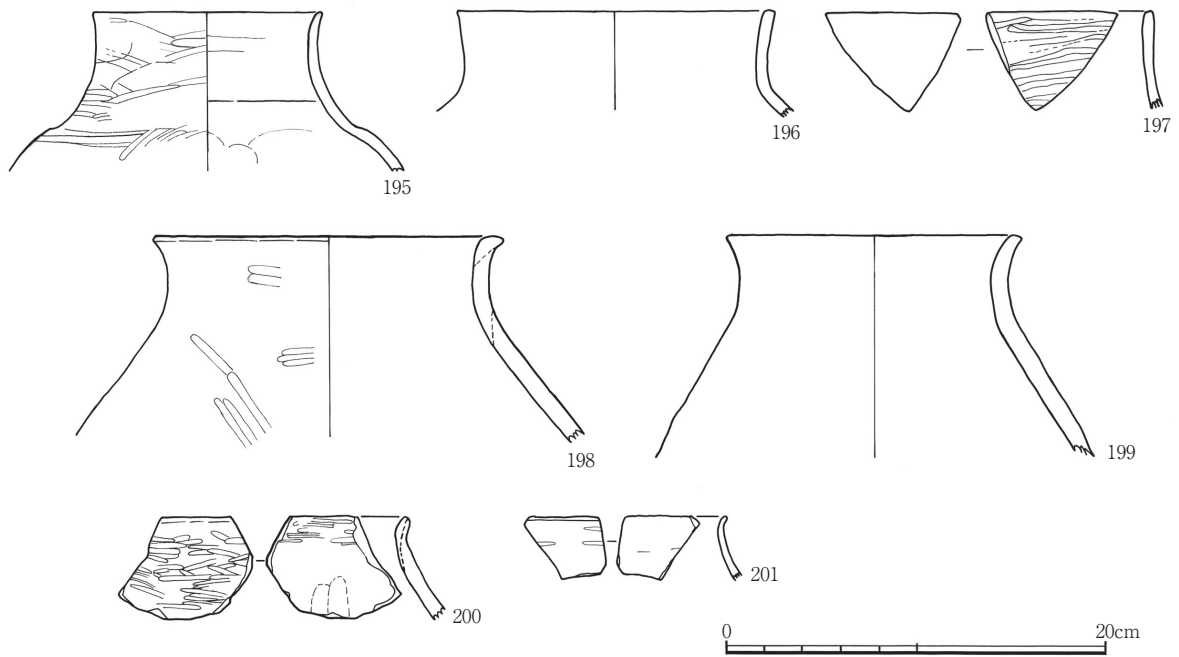


図38 1984年調査 IX 層出土土器 (7)

口縁が比較的長く立ち上がる江辻 SX-1 段階のものである。176~178 は逆「く」の字形口縁に刻目突帯文が付く夜白 I 式の浅鉢である。180~189 も口縁が逆「く」の字形の浅鉢であるが、頸部屈曲部から口唇までの長さにより大きく 4 類に分類できる。175・180、181・186、182・183・185、184・187~189 の 4 類で、屈曲口縁の長さが次第に短縮し形骸化していくような順に型式変化したと考えられる。175・180 が夜白 I 式、181~190 は夜白 II 式である。181・186 が夜白 II a 式、182・183・185 が夜白 II b 式古段階、184・187~189 が夜白 II b 式新段階である。190 は外面が条痕地で、内外面に丹塗りが施される浅鉢。191 は口縁部内外面に丹塗りが施され研かれている鉢である。192 も内外面に丹塗りが施された鉢。193 は鉢に見えるが、器壁や胎土からは深鉢と思われる。194 はミニチュアの鉢である。

195~201 は壺である。195~197 は中型壺で、頸部から口縁部にかけて直口するように立ち上がる夜白 I 式である。195 は外面に丹塗りが施されている。198・199 は頸部から斜めに立ち上がる口縁が湾

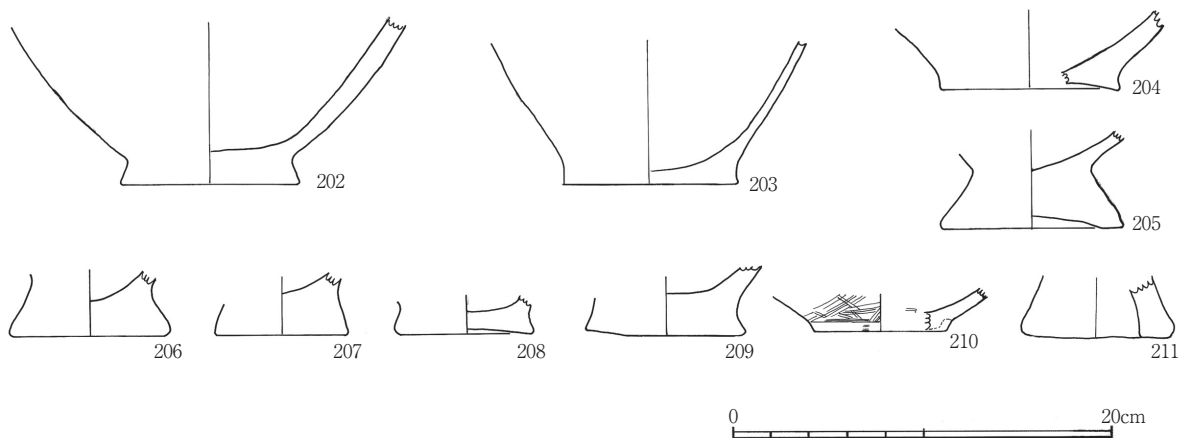


図39 1984年調査 IX 層出土土器 (8)

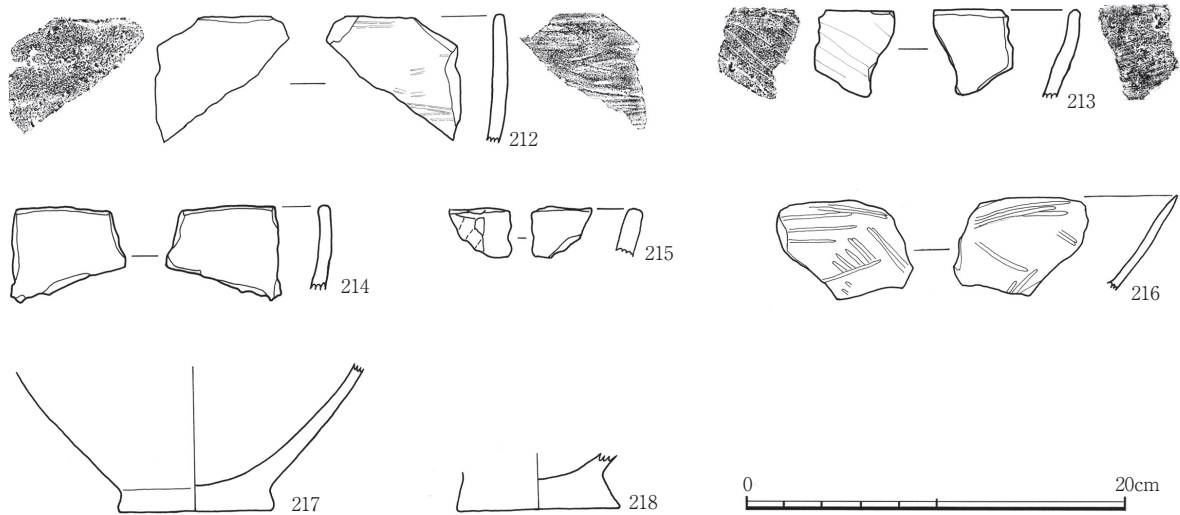


図40 1984年調査 VIII層出土土器

曲気味に外反する夜白Ⅱ式の中型壺である。200・201は小型壺であり、頸部が斜めに立ち上がり口縁端部が若干外湾する夜白Ⅱ式の壺である。

202～211は底部である。210は外面に条痕調整が施される浅鉢の底部である。211は脚付きの浅鉢ないしは高坏の脚部である。その他の底部は深鉢の底部と考えられる。

以上のように、Ⅸ層は江辻SX-1、夜白Ⅰ式、夜白Ⅱ式からなり、板付Ⅰ式が存在しない夜白単純層であることが改めて確かめられた。また、夜白Ⅱ式は刻目突帯文土器深鉢や浅鉢の型式分類からは3段階に細分が可能であり、夜白Ⅱa式、夜白Ⅱb式古段階、夜白Ⅱb式新段階という3段階の変化を考えることができる。さらに、夜白Ⅱb式新段階には板付Ⅰ式が伴わないという事実は重要である。

#### (8) VIII層 (図40)

212～215は直口口縁の深鉢で、212～214には条痕調整が認められる。216は、内外面とともに丁寧な研ぎが施される浅鉢。217・218は深鉢の底部である。J8区など一部の地区に認められる層位で遺物量は少なく、Ⅸ層と同じ内容と判断される。この層までが夜白式単純層であることを示している。

#### (9) VII層 (図41)

219は深鉢、220～222は刻目突帯文土器深鉢である。220は、口唇から離れた位置に菱形の刻目の突帯文が施される夜白Ⅰ式。221は口唇の突帯がなく口唇にV字刻目が施される「く」の字口縁の夜白Ⅱb式古段階、222は頸部屈曲部が直立化した夜白Ⅱb式新段階である。228は刻目突帯文土器深鉢の屈曲部であり、粘土帯の接合部にあっており、偽口縁をなす。屈曲部に刻目が施されたものである。

223～227は板付Ⅰ式の甕である。口唇が刻まれ、224のように口唇下の外面が縦方向のハケ目が施される板付Ⅰa式であり、223・225も板付Ⅰa式である。226・227は口唇外面端部を刻む板付Ⅰb式である。229～237は壺である。230・231・233は口縁が肥厚し段をなす板付Ⅰ式で、229・232は口縁下の段部分が沈線文に変化した板付Ⅱa式である。234～237はこれら壺の頸部から胴部にかけての破片である。236は山形文、235・237は山形文が連結して連弧文に変化している。238は高坏の坏部と脚部が連結する部分の破片である。

#### (10) IV層 (図42)

239は、内外面に条痕が施される直口口縁の深鉢である。



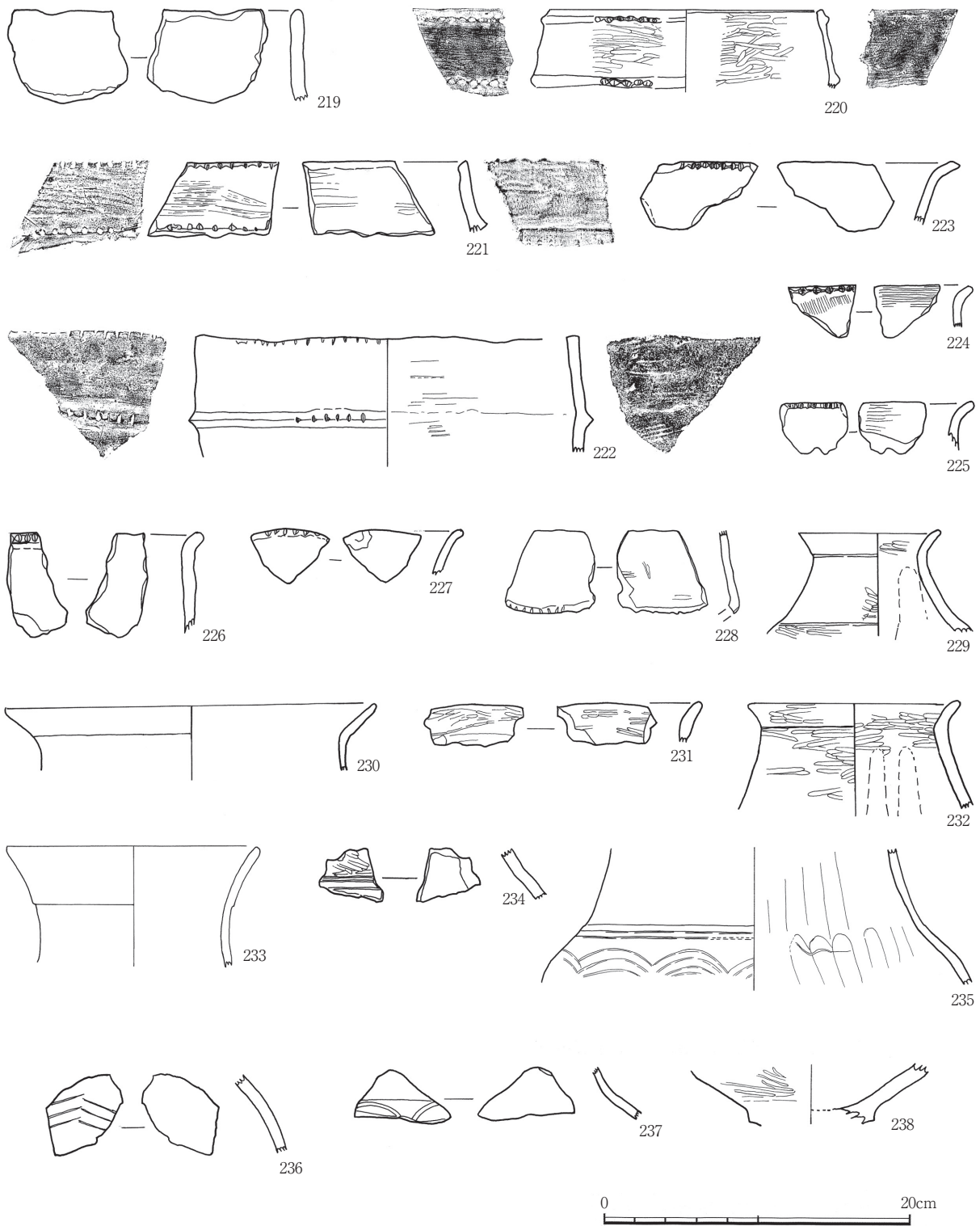


図41 1984年調査 VII 層出土土器

(II) III層 (図43~47)

240~253は夜臼式の壺である。245~247は口縁が短く直立するように立ち上がる壺である。248~250は頸部から斜めに立ちあがり、口縁端部が若干屈曲する壺である。これら245~250は夜臼I式である。247は内外面に丹塗りが施されている。240~244・251~253は、頸部が斜めに立ち上がり口縁

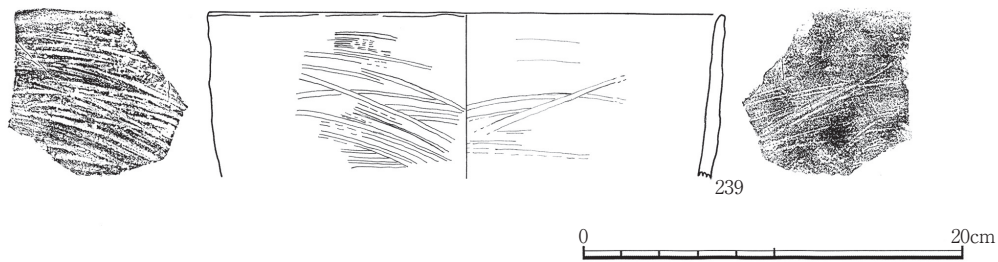


図42 1984年調査 IV 層出土土器

端部で外反する夜臼Ⅱ式のものであろう。243・244は大型の壺である。

254～258・260・297は浅鉢、259は鉢である。297は口縁が二段に屈曲する江辻SX-1段階の浅鉢であらう。257は口縁端部が若干肥厚した逆「く」の字口縁の浅鉢で、江辻SX-1段階のものである。254は内外面に条痕調整が施され、外面に丹塗りが施された浅鉢。256は逆「く」の字形口縁で、屈曲部に菱形の刻目突帯文が施される夜臼Ⅰ式の浅鉢。255・258・260は逆「く」字形口縁の浅鉢で、口唇から屈曲部までが短くなった夜臼Ⅱ式である。261は脚端部で台付浅鉢あるいは高坏の脚部である。

262は直口口縁の深鉢。263～296が刻目突帯文土器深鉢である。263～267・275は、口唇からやや離れた位置に刻目突帯文が施される夜臼Ⅰ式である。263はO字形に近い菱形文の刻目が施された1条刻目突帯文深鉢、275も菱形の刻目突帯が施された1条刻目突帯文深鉢である。264～267は菱形の刻目が施された胴部屈曲タイプの2条突帯文土器深鉢である。268～270は口唇に接して突帯が貼り付けられる夜臼Ⅱa式であり、268は菱形の刻目が、269・270はD字形の刻目突帯文が施された2条突帯の刻目突帯文深鉢である。271～274・276～286は、唐津地域の地域性を示す口縁に突帯を持たず口唇に直接刻目がほどこされる2条突帯文土器深鉢の夜臼Ⅱb式である。これら夜臼Ⅱb式は、271・276・279・280に条痕調整が認められる以外、ナデ調整が主流となっている。276・277は口唇刻目がD字形をなす「く」の字口縁の刻目突帯文土器深鉢。271・273・274・278～284は刻目がV字形を呈する「く」の字形口縁の刻目突帯文土器深鉢である。これら「く」の字形口縁は夜臼Ⅱb式古段階に属する。一方、同じV字形刻目ではあるが、「く」の字形口縁ではなく、屈曲部がなくなった直立口縁をなす285・286は夜臼Ⅱb式新段階である。

287～296は、これら2条突帯刻目文突帯文土器深鉢の胴部屈曲部である。287・288は菱形刻目の夜臼Ⅰ式、289～291はD字形刻目の夜臼Ⅱa式である。292～296は刻目がV字形をなす夜臼Ⅱb式であるが、この内292・293と295は屈曲部が消失して直立するもので、夜臼Ⅱb式新段階に属する。

298～307は板付祖型甕である。302は口縁を面取りし、口縁端部に菱形の刻目が施されている。298～301は口縁部を面取りし、口唇部外端部に刻目を施すものである。306・307は面取された口唇部の端部を刻むものである。299・303・304は、面取された口唇端部外面にV字状刻みが施される。これら口唇端部を刻む板付祖型甕は、在地的に変化したものである（藤尾1991・2009）。305は、口唇外面にV字状の粗い刻目が施され、さらに内外に縦方向のハケ目が施されるものである。302が最も板付祖形甕として古いものであり、次いで口縁部が面取りされながら口唇外端部を刻む298～301・306・307へ変化し、その後、303～305のように口縁端部外面にV字刻目が施されるように在地的に変化していく。この最終段階である305ではハケ目調整が出現している。

308～311は板付式甕である。308～310は口縁端部がやや外反し、口縁端部に刻目が施される板付Ⅰ式である。309は外面の口縁端直下から縦方向のハケ目が施されている板付Ⅰa式。308・310は口縁外端部が刻まれる板付Ⅰb式である。311は口縁端部が湾曲気味に外反し、外面の口縁直下は縦方向

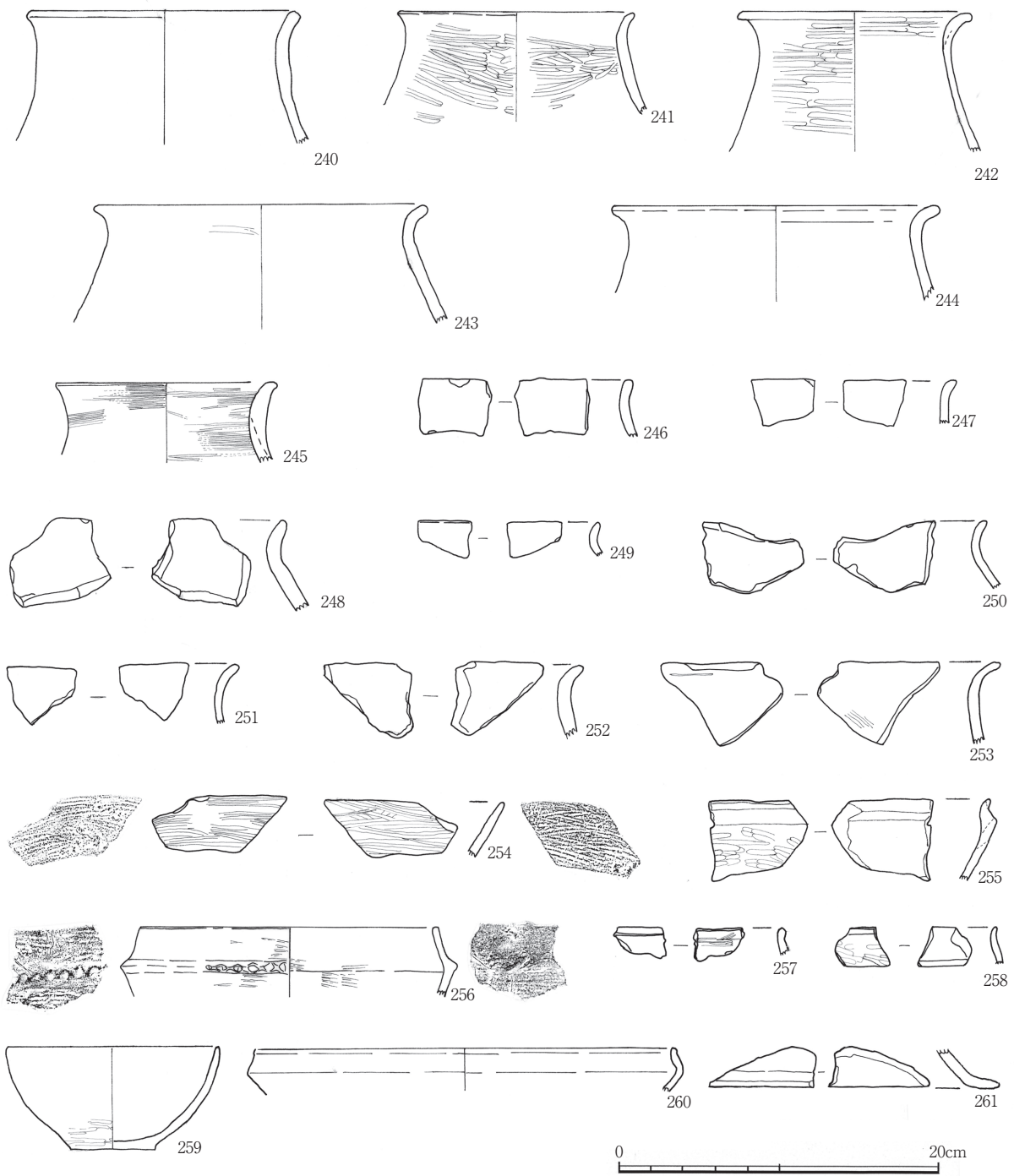


図43 1984年調査 III 層出土土器 (1)

のハケ目調整後にナデ調整が施され、口縁端部には刻目が施されない板付 II a 式である。

(12) II 層 (図48)

312は内外面に条痕調整が施される深鉢。314・315は口唇に V 字形刻目が施される 2 条刻目突帯文土器深鉢で、夜白 II b 式である。313は口縁が内傾しながら立ち上がり口縁端部が外反する夜白式の壺である。

(13) 出土層位不明土器 (図49・50)

317は口端部が刻まれる板付祖型甕。316は口縁部が垂直に立ち上がる夜白 I 式の小型壺である。内

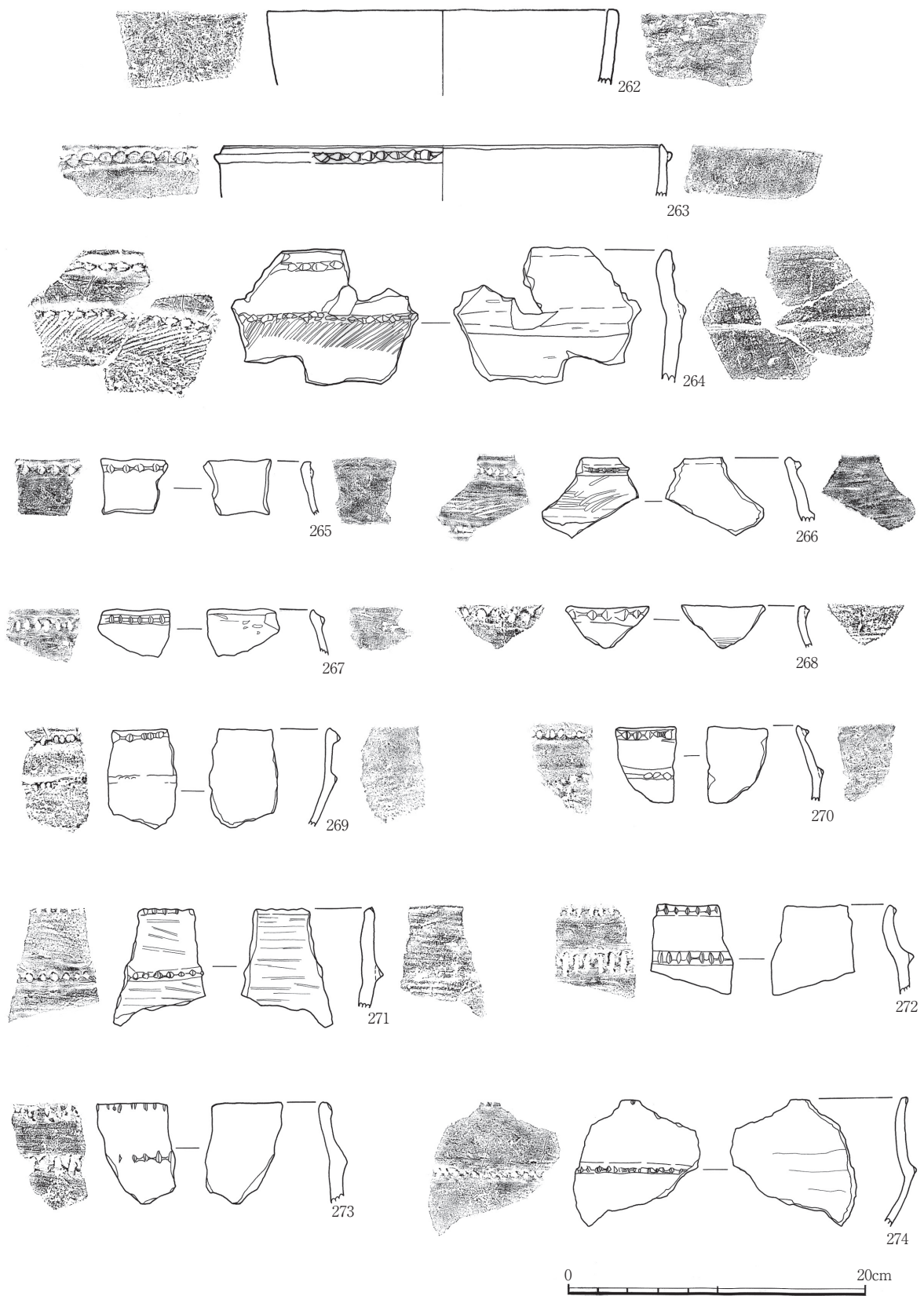


图44 1984年调查 III 层出土土器 (2)



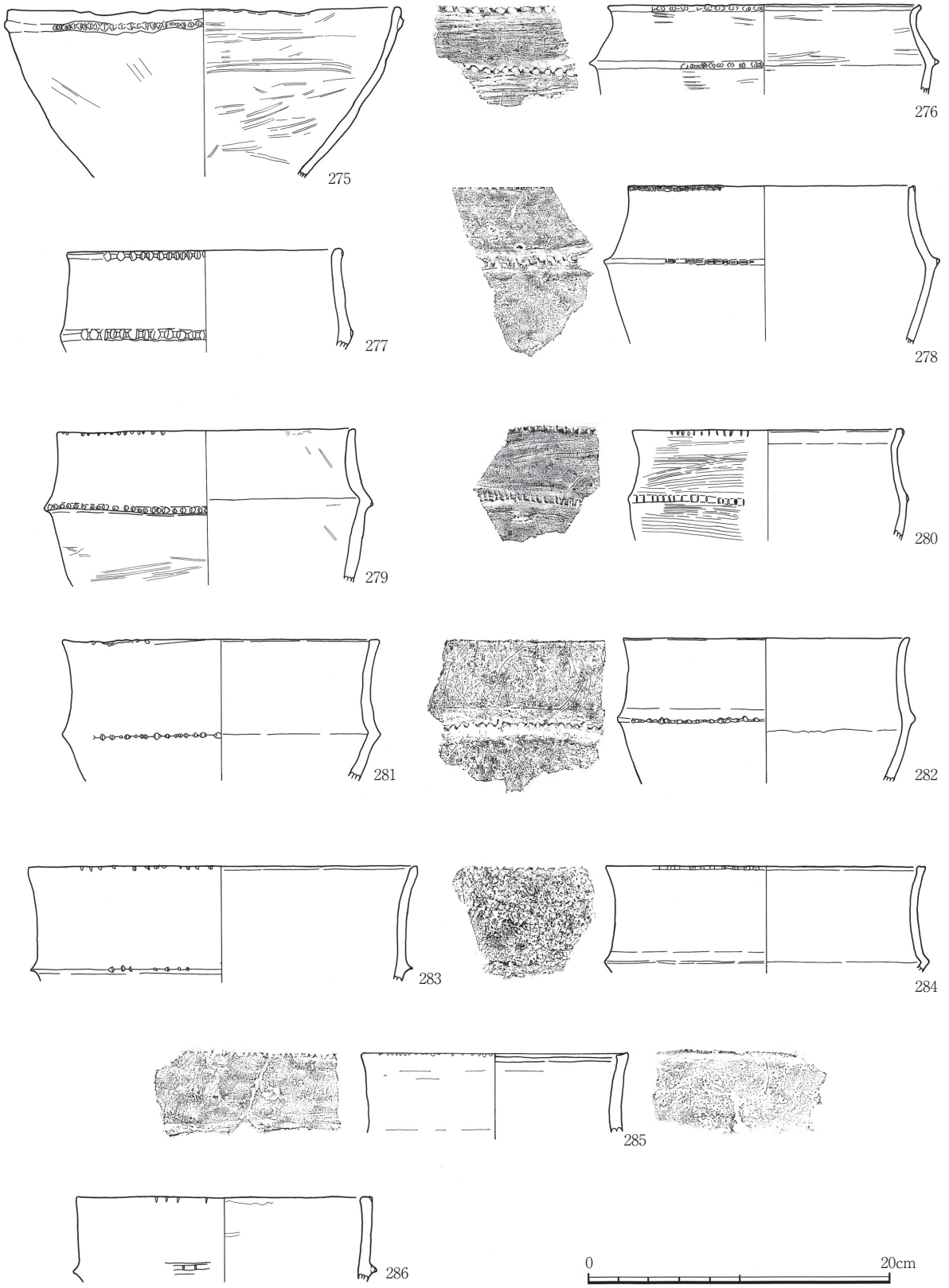


图45 1984年调查 III 层出土土器 (3)

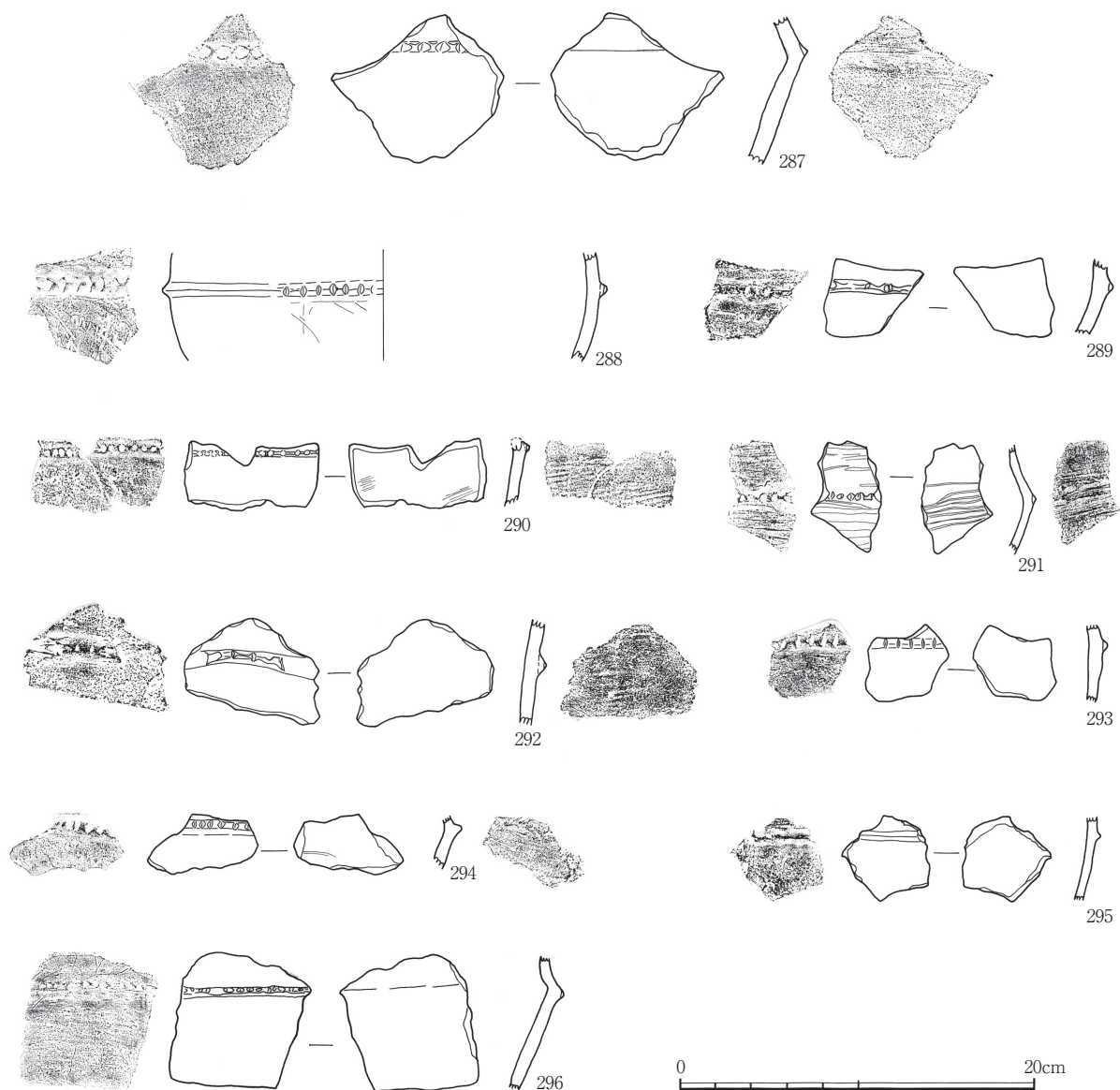


図46 1984年調査 III 層出土土器 (4)

面の一部には条痕調整の痕跡が認められる。318・320は口端部が外反する夜白Ⅱ式の壺。319は口縁部が肥厚する板付Ⅰ式の壺である。319・320は口縁部内外面に丹塗りが施されている。

321～325は浅鉢である。321・323～325は逆「く」の字形口縁浅鉢であり、323・324が夜白Ⅰ式、325が夜白Ⅱa式、321が夜白Ⅱb式である。326～328は鉢である。

329～331は深鉢である。329・330が直口口縁の深鉢で、331は口縁が内湾する深鉢である。332～340は刻目突帯文土器深鉢である。332は口唇に接してD字形刻目の突帯文が貼り付けられた夜白Ⅱa式である。334は口縁部に突帯を持たずV字形刻目が施される夜白Ⅱb式である。333・335・336は胴部屈曲部に突帯にD字形刻目が施され、337～340は胴部屈曲部突帯の刻目がV字形刻みである。これら胴部片は、夜白Ⅱ式段階の刻目突帯文土器深鉢であり、V字形刻目の337～340は夜白Ⅱb式である。



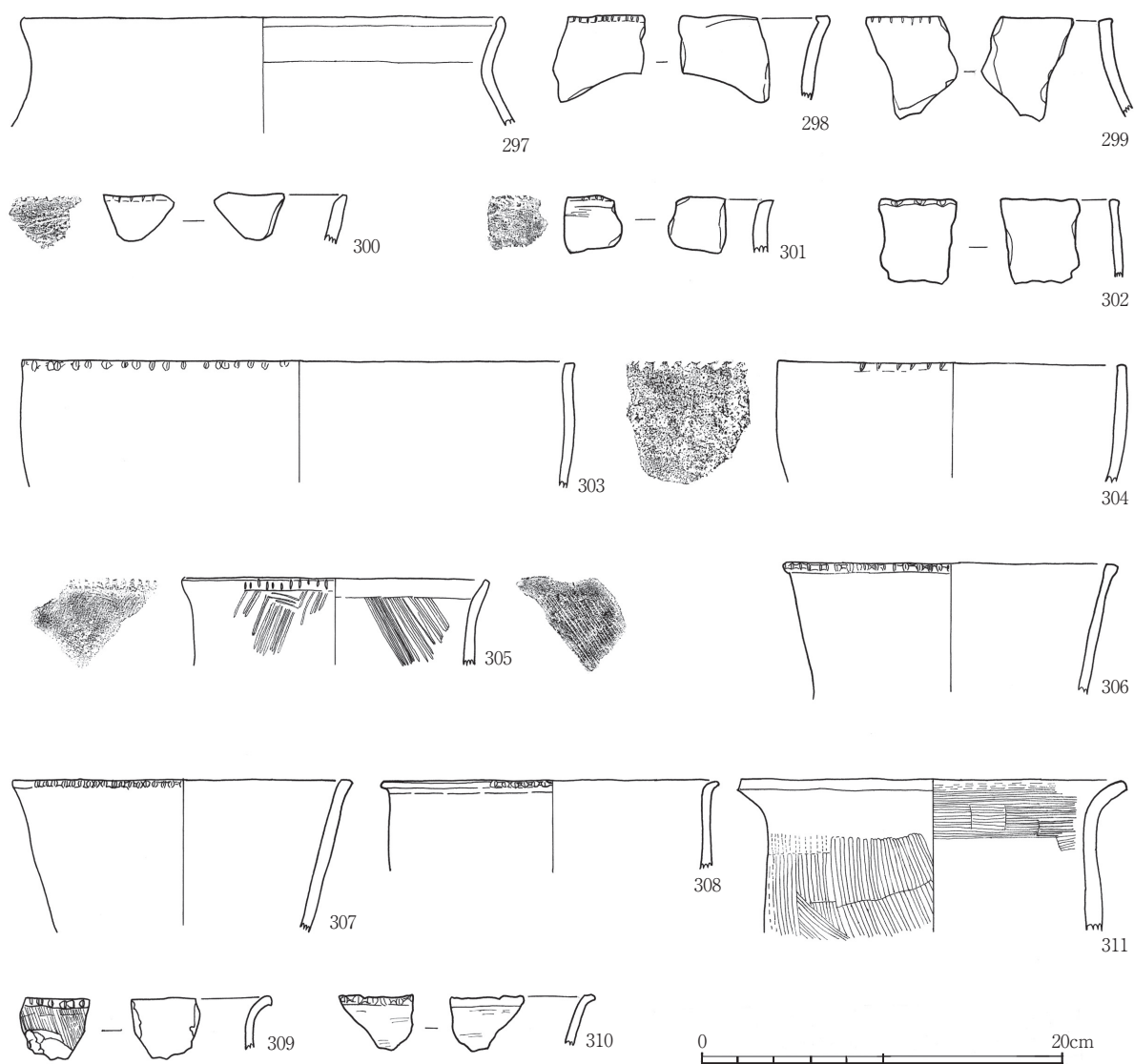


図47 1984年調査 III 層出土土器 (5)

(14) 土製品 (図51、表5、図版18-1)

341~345は紡錘車である。341は側面に1条の沈線が施されているが、そのほかには沈線は認められない。341~344は直径が5cm前後と一定の大きさを示すが、345はやや小ぶりのものである。341と345はⅨ層からの出土であり、このような紡錘車が夜臼式の刻目突帯文土器単純層に存在している。341のような側面に1条の沈線を持つものは曲り田遺跡にも認められ、341~345の土製円盤形紡錘車は夜臼式から定型化するものである(中間1985)。無文土器文化にも同様な土製円盤形紡錘車が存在し、稲作伝播時期における何らかの関連性が認められる。

346~348は円盤状土製品である。大型壺の胴部片を再利用したもので、側面が研磨されている。348はⅩ層、347はⅨ層から出土したものであり、紡錘車と同様に夜臼式段階のものである。

349は土偶の頭部片である。眼、鼻、口が具象的に表現されており、西日本に認められる縄文後・晩期の板状で抽象化された分銅形土偶(井上1993)とは異なっている。山形土偶は縄文時代後期後半に九州にも伝播することから、349もその一つと考えられる。しかし、本貝塚土器資料には縄文後期の土器は認められず、このような人形の山形土偶が、刻目突帯文土器時期まで存続していたと考えざ

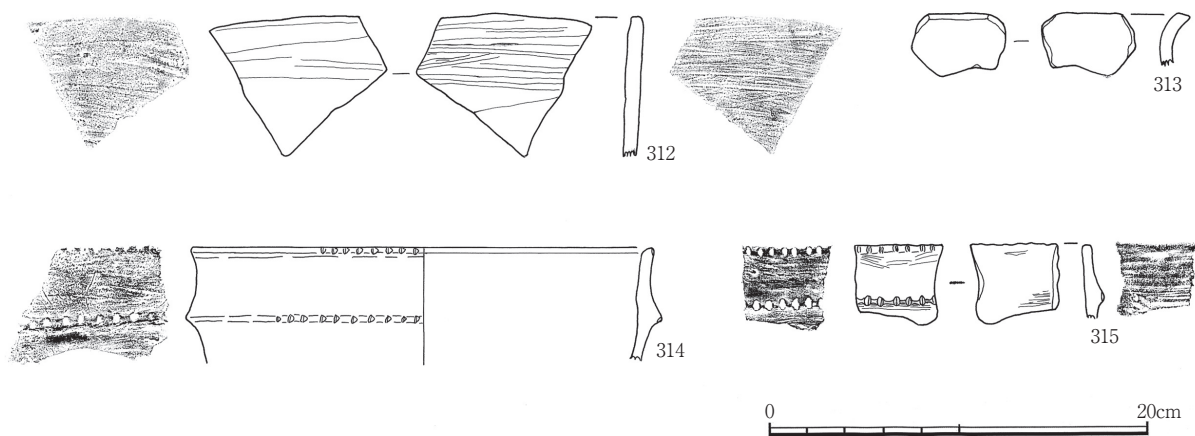


図48 1984年調査 II 層出土土器

るを得ない資料である。山形土偶は、近畿では縄文晩期前半の橿原遺跡などで盛行するが、こうした文化要素が刻目突帯文土器の瀬戸内・近畿からの波及により、北部九州にも刻目突帯文土器文化期にもたらされた可能性を考えたい。

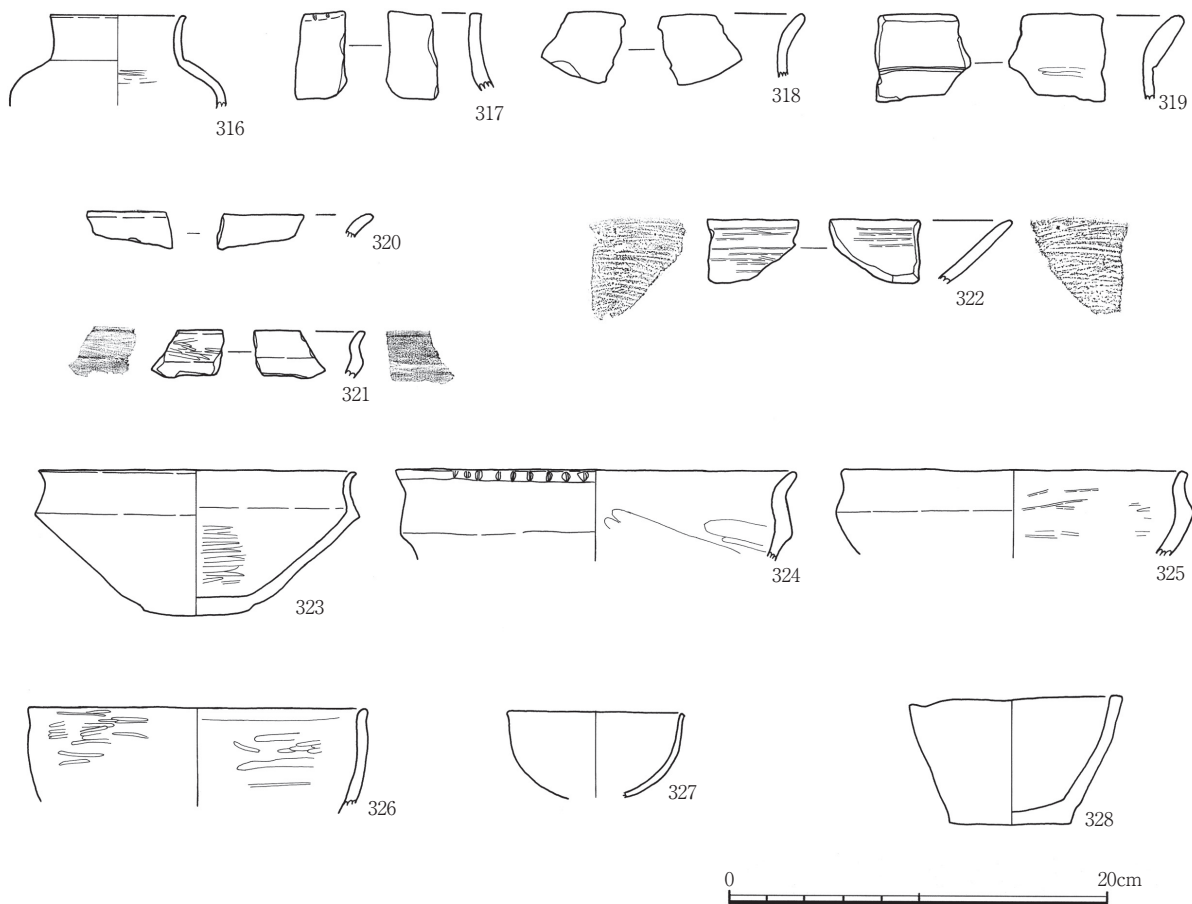


図49 1984年調査出土層位不明土器 (1)

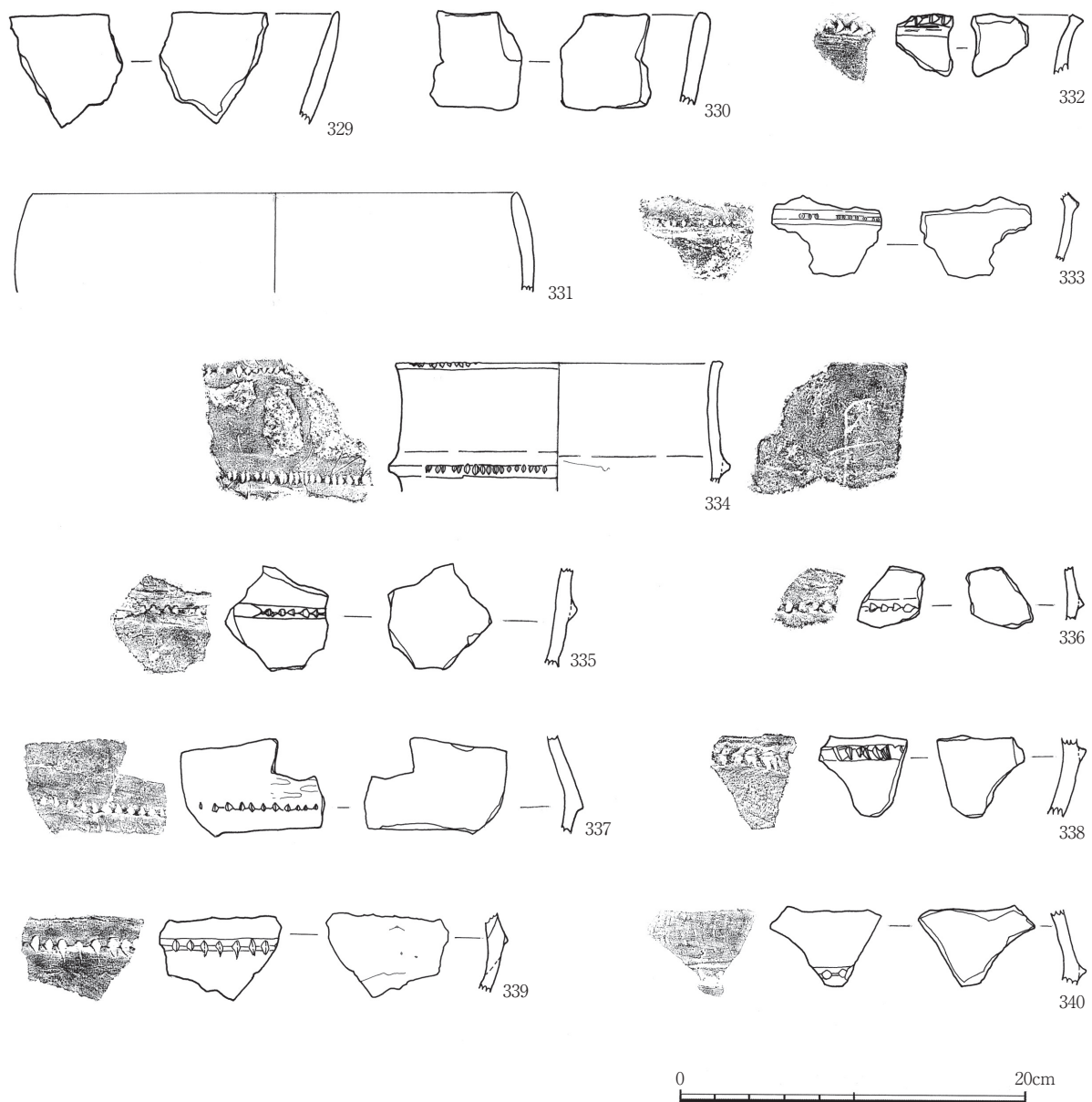


図50 1984年調査出土層位不明土器（2）

#### 4. その他

「展示資料」として木箱に保存されていた資料である。土器の形態的特徴や胎土の特徴から宇木汲田貝塚出土のものと判断される。参考資料として掲載する（図52、表6、図版18-2）。

350～353が壺である。350は口縁部に向けて内傾するように立ち上がり口縁端部が外反する夜白Ⅱ式の小型壺。351は頸部の段部が沈線文化した板付Ⅱa式の中型壺、353も同じく頸部の段部が沈線文化した板付Ⅱa式の大壺である。352は頸部の段部が沈線文化し、2本線からなる山形文が施された板付Ⅱa式の壺である。

354は外面に条痕が施される直口口縁の深鉢。355～357は刻目突帯文土器深鉢である。355は口唇に接してD字形刻目の突帯文が施される夜白Ⅱa式。356は口縁端部の突帯文が消失しD字形刻目が施され、胴部屈曲部の突帯文にもD字形刻目が施される夜白Ⅱb式古段階のものである。357は口縁端

表4 1966・1984年調査出土土器観察表

番号	器種	調査年	地区	土層・遺構	型式	計測値 (cm) ( )内は復元径				色調		胎土	調整		丹塗り 外面内面
						口径	頸部径	胴部径	底径	外面	内面		外面	内面	
1	壺	1966	H6	黒褐色層	夜白 I	(11.8)	(9.7)			Hue10YR6/2	Hue10YR4/1	緻密・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
2	壺	1966	H6	黒褐色層	夜白 I	(12.2)	(10.5)			Hue10YR7/1	Hue25YR6/1	緻密・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
3	壺	1966	不明	黒褐色層	夜白 I	(9.4)	(9.5)			Hue25Y4/1	Hue25Y4/1	緻密・角閃石	タテミガキ	ヨコミガキ	
4	壺	1966	G6	貝層直上	夜白 II					Hue7.5YR4/4	Hue7.5YR4/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英	ヨコナデ	ヨコナデ	
5	壺	1966	H6	黒褐色層	夜白 II	(9.2)	(8.0)			Hue10YR3/1	Hue10YR3/1	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母・角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
6	壺	1966	G4	貝層 f	板付 IIa	(16.8)	(12.7)			Hue7.5YR7/4	Hue5YR7/6	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母・角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
7	壺	1966	H6	黒褐色層	夜白 I					Hue25YR6/8	Hue7.5YR8/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ヨコナデ	ヨコナデ	○ ○
8	壺	1966	I6	貝層 b	夜白 II	(34.0)	(22.0)			Hue10R5/8	Hue5YR6/6	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	○ ○
9	壺	1966	H6	黒褐色層 c	夜白 II	(29.5)	(25.2)			Hue25YR6/8	Hue7.5YR8/4	1mm 程度の白色砂粒	ヨコミガキ	ヨコミガキ	○ ○
10	壺	1966	I6	不明	板付 I・II	(3.2)	(2.9)			Hue7.5YR4/2	Hue7.5YR4/1	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母	ミガキ	ミガキ	
11	壺	1966	不明	不明	夜白				(8.0)	Hue7.5YR8/6	Hue7.5YR8/6	1~2mm 程度の白色砂粒	ナデ	ナデ	
12	深鉢	1966	H6	黒褐色層 c	夜白					Hue10YR5/3	Hue7.5YR7/6	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
13	板付祖型甕	1966	不明	不明	夜白					Hue7.5YR7/3	Hue7.5YR3/1	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母・角閃石	条痕	ナデ	
14	深鉢	1966	I6	黒褐色層 g	夜白 I	(23.5)	(23.3)			Hue7.5YR8/6	Hue7.5YR8/3	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母・角閃石	条痕	条痕	
15	深鉢	1966	G6	黒褐色層 d	夜白 I					Hue10YR3/1	Hue7.5YR8/6	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
16	深鉢	1966	I6	黒褐色層 d	夜白 I					Hue10YR5/3	Hue7.5YR7/2	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
17	深鉢	1966	J6	黒褐色層 c	夜白 I	(26.4)	(28.3)			Hue10YR5/2	Hue10YR7/3	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
18	深鉢	1966	I6	黒褐色層 gh	夜白 I	(24.8)				Hue25YR7/8・ Hue10YR6/2	Hue25YR7/8	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母・角閃石	ナデ	条痕	
19	深鉢	1966	I6	黒褐色層 gh	夜白 IIa	(21.0)	(23.3)			Hue7.5YR7/3	Hue10YR8/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
20	深鉢	1966	I6	黒褐色層 f	夜白 IIb	(16.6)	(17.8)			Hue7.5YR8/4	Hue7.5YR8/3	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	条痕	
21	深鉢	1966	H6	黒褐色層 de	夜白 IIb	(19.2)	(22.4)			Hue10YR7/3	Hue10YR8/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
22	深鉢	1966	H6	黒褐色層 c	夜白 IIb					Hue5YR7/6	Hue10YR7/6	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
23	深鉢	1966	H6	黒褐色層 e	夜白 IIb					Hue10YR7/3	Hue10YR7/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
24	深鉢	1966	I6	黒褐色層 c	夜白 IIb					Hue5YR4/1	Hue10YR5/6	1mm 程度の石英・雲母	ナデ	ナデ	
25	深鉢	1966	G6	黒褐色層 d	夜白 IIb					Hue25Y3/1	Hue10YR7/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
26	深鉢	1966	H6	黒褐色層 de	夜白 IIb	(23.0)	(26.2)			Hue10YR8/3	Hue10YR8/3	0.5mm ~2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
27	深鉢	1966	H6	黒褐色層 c	夜白 IIb	(18.0)	(20.2)			Hue10YR8/4	Hue10YR7/3	0.5mm ~2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
28	深鉢	1966	H6	黒褐色層 b	夜白 IIb	(18.0)	(18.8)			Hue7.5YR8/6	Hue7.5YR8/6	0.5mm ~2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
29	深鉢	1966	G6	貝層中下部	夜白 IIb					Hue25Y3/1	Hue25Y3/1	0.5mm ~1mm 程度の石英	ナデ	ナデ	
30	深鉢	1966	I6	黒褐色層 b	夜白 IIb					Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR7/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
31	深鉢	1966	I6	黒褐色層 c	夜白			(10.0)		Hue7.5YR8/4	Hue7.5YR8/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
32	深鉢	1966	I6	黒褐色層 a	夜白		8.4			Hue5YR7/6	Hue5YR7/6	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
33	深鉢	1966	G6	貝層中下部	夜白		(7.9)			Hue5YR8/4	Hue5YR7/6	0.5mm 程度の白色砂粒・石英	ナデ	ナデ	
34	深鉢	1966	G6	黒褐色層 c	夜白		(10.0)			Hue25YR7/8	Hue25YR4/1	0.5mm 程度の白色砂粒・石英	ナデ	ナデ	
35	浅鉢	1966	G6	貝層中下部	江辻 SX1					Hue10YR5/2	Hue10YR7/2	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
36	浅鉢	1966	G6	貝層中下部	江辻 SX1	(33.6)				Hue7.5YR8/1	Hue7.5YR8/3	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ヨコミガキ	
37	浅鉢	1966	I5	黒褐色層 a	江辻 SX1	(33.6)	(32.2)			Hue25YR7/8・ Hue5YR4/1	Hue25YR3/1	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
38	浅鉢	1966	I6	黒褐色層 f	江辻 SX1	(30.0)				Hue25YR7/8	Hue25YR7/8	緻密・雲母・角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
39	浅鉢	1966	I5	黒褐色層 e	夜白 I	(25.0)	(24.5)			Hue10YR7/3	Hue25YR7/3	緻密・石英	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
40	浅鉢	1966	I6	黒褐色層 d	夜白 I					Hue5YR4/6	Hue5YR5/4	0.5mm 程度の白色砂粒	ナデ	ナデ	
41	浅鉢	1966	I5	黒褐色層 b	夜白 IIa	(20.4)	(22.4)			Hue10YR6/4	Hue10YR7/2	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ヨコミガキ	ナデ	
42	浅鉢	1966	不明	黒褐色層 d	夜白 IIa					Hue7.5YR7/4	Hue10YR6/3	0.5mm ~1mm 程度の白色砂粒・石英	ナデ	ヨコミガキ	○
43	浅鉢	1966	H6	黒褐色層 c	夜白 IIa	(20.0)	(22.6)			Hue10YR4/1	Hue7.5YR6/3	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ	○
44	浅鉢	1966	H6	黒褐色層 e	夜白 IIa					Hue5YR6/8	Hue10YR7/4	緻密・石英・雲母・角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
45	浅鉢	1966	G6	貝層中下部	夜白 IIb					Hue10YR4/1	Hue10YR5/2	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
46	浅鉢	1966	G6	黒褐色層 e	夜白 IIb					Hue7.5YR7/6	Hue7.5YR8/3	緻密・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
47	浅鉢	1966	H6	黒褐色層 d	夜白 IIb					Hue10YR6/1	Hue10YR7/3	緻密・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
48	鉢	1966	I6	黒褐色層 d	夜白	(20.0)				Hue10R4/6	Hue10R4/6	緻密・多量の雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	○ ○
49	甕	1966	H6	黒褐色層 e	夜白 II					Hue7.5YR7/3	Hue7.5YR7/3	0.5mm 程度の白色砂粒・石英	ヨコナデ	ヨコナデ	
50	甕	1966	G6	黒褐色層 d	板付 Ia	(26.6)				Hue7.5YR8/6	Hue7.5YR8/6	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ヨコナデ	ハケメ	
51	甕	1966	G6	貝層中下部	板付 Ia					Hue10YR6/2・ Hue5YR7/8	Hue10YR6/4	0.5mm 程度の石英・雲母	ハケメ	ハケメ	
52	甕	1966	G6	貝層直上	板付 Ia					Hue7.5YR7/6	Hue7.5YR8/8	0.5mm 程度の石英・雲母・角閃石	ハケメ	ナデ	
53	甕	1966	H6	黒褐色層 b	板付 Ia					Hue25YR3/1	Hue25YR7/8	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ハケメ	ハケメ	
54	甕	1966	G4	貝層 f	板付 Ib					Hue10YR8/2	Hue7.5YR8/4	0.5mm ~1mm 程度の石英・雲母・角閃石	ハケメ	ハケメ	
55	甕	1966	G4	貝層 g	板付 IIa	(26.0)				Hue7.5YR8/4・ Hue10YR7/2	Hue7.5YR8/6	0.5mm ~1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	板ナデ	
56	甕	1966	G6	黒褐色層 d	板付 I・II		(9.2)			Hue7.5YR7/8	Hue10YR8/6	0.5mm ~1mm 程度の白色砂粒・石英・角閃石	ハケメ	ナデ	
57	甕	1966	I6	貝層 b	板付 I・II			8.2		Hue10YR7/4	Hue10YR7/4	0.5mm ~1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
58	深鉢	1984	B8	XI	江辻 SX1	18.4				Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm ~2mm 程度の白色砂粒・雲母	ナデ	ナデ	
59	深鉢	1984	F7	XI	江辻 SX1					Hue10YR6/1	Hue10YR6/1	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
60	浅鉢	1984	F7	XI	江辻 SX1	(24.4)	(26.0)			Hue7.5YR6/4	Hue7.5YR6/4	緻密・雲母・角閃石	ヨコミガキ・ タテミガキ (屈曲下部)	ヨコミガキ	
61	浅鉢	1984	G8c	XI	江辻 SX1					Hue7.5YR6/1	Hue10YR4/1	緻密・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
62	浅鉢	1984	H5/6	南壁 secXI	江辻 SX1		7.2			Hue7.5YR8/6	Hue7.5YR8/6	0.5mm ~2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
63	深鉢	1984	B8	XI	江辻 SX1		7.0			Hue5YR8/3	Hue10YR7/2	0.5mm ~1mm 程度の白色砂粒・やや多量の雲母	ナデ・ユビ オサエ	ナデ	
64	深鉢	1984	H5	XI	江辻 SX1		7.0			Hue7.5YR6/1	Hue10YR6/2	0.5mm ~2mm 程度の白色砂粒・石英	ナデ	ナデ	
65	深鉢	1984	J7	Xb2-3-1	夜白 I	(24.0)				Hue25YR6/8	Hue10YR8/4	0.5mm ~1mm 程度の白色砂粒・雲母	条痕	条痕	
66	深鉢	1984	G7c/F7	Xa-7-12	夜白 I	(30.4)				Hue5YR7/8	Hue5YR7/8	0.5mm ~4mm 程度の白色砂粒・やや多量の雲母	ヨコナデ	ヨコナデ	
67	深鉢	1984	J8	Xb-4	夜白 I	(22.8)				Hue10YR6/2	Hue10YR5/1	0.5mm ~3mm 程度の白色砂粒・雲母	ヨコナデ	ヨコナデ	
68	深鉢	1984	G9c	Xa-65	夜白 I	(20.6)				Hue5YR 5/1	Hue5YR5/1	0.5mm ~1mm 程度の白色砂粒・比較的多量の雲母	ナデ	ナデ	



番号	器種	調査年	地区	土層・遺構	型式	計測値 (cm) 内は復元径			色調		胎土	調整		丹塗り 外面内面	
						口径	頭部径	胴部径	底径	外面		内面	外面		内面
69	深鉢	1984	G9d	Xa-9-42	夜白 I	(17.8)			Hue10YR5/2	Hue10YR2/1	0.5mm ~ 3mm 程度の白色砂粒・石英	ナデ	ナデ		
70	深鉢	1984	G8e	Xa-9-56/57	夜白 I	(18.7)			Hue5YR6/4	Hue7.5YR6/3	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・雲母	ナデ	ナデ		
71	深鉢	1984	GH6	東 secXb-3	夜白 I				Hue5YR7/6	Hue5YR7/6	緻密・雲母	条痕	条痕		
72	深鉢	1984	G9c	Xa-9-0	夜白 I				Hue5YR6/3	Hue7.5YR5/3	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・雲母	ナデ	ナデ		
73	深鉢	1984	G7c	Xa-7-12	夜白 I				Hue5YR6/8	Hue5YR6/8	緻密・雲母	条痕	条痕		
74	深鉢	1984	G8c	Xa-8-2	夜白 I				Hue10YR7/3	Hue10YR2/1	緻密・雲母	ナデ	ナデ		
75	深鉢	1984	F8c	Xa-10-14/21	夜白 I				Hue7.5YR2/1	Hue7.5YR2/1	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	条痕	ナデ・条痕		
76	鉢	1984	GH6	東 secXb-3	夜白 I				Hue10YR6/2	Hue7.5YR7/4	緻密・やや多量の雲母・角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ		
77	深鉢	1984	H8b/H7	Xa-5-8	夜白 I				Hue7.5YR2/1	Hue7.5YR2/1	3mm 程度の石英・やや多量の雲母	ナデ	ナデ		
78	深鉢	1984	G7c	Xa-7-12	夜白 I				Hue5YR7/6	Hue5YR7/8	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・やや多量の雲母・角閃石	ナデ	条痕		
79	浅鉢	1984	H6	Xb-1	夜白 I				Hue10YR7/2	Hue10YR2/1	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ		
80	浅鉢	1984	J7	Xb-2	夜白 I				Hue10YR4/1	Hue10YR2/1	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ		
81	鉢	1984	H6	Xb-1	夜白 I	(11.4)			Hue2.5YR6/8	Hue2.5YR6/8	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英	ナデ	ナデ		
82	壺	1984	G8d/H8b	Xa-7-9	夜白 I				Hue10YR5/1	Hue10YR2/1	緻密・雲母・角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ		
83	壺	1984	G8d/H8b	Xa-7-9	夜白 I				Hue10YR4/1	Hue10YR2/1	緻密・雲母・角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ		
84	壺	1984	J7	Xb-2	夜白 I	(9.6)	(8.9)		Hue2.5YR6/8	Hue2.5YR6/8	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	タテミガキ	ヨコミガキ	○ ○	
85	壺	1984	F8a/b/G9c	Xa-6-2	夜白 I				Hue7.5YR5/1	Hue7.5YR5/1	緻密・雲母	ミガキ	条痕		
86	深鉢	1984	G7c	Xa-7-12	夜白 I			6.5	Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR7/1	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・雲母	ナデ	ナデ		
87	深鉢	1984	GH6	東 secXb-3	夜白 I			8.2	Hue7.5YR7/3	Hue10YR7/1	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ・ユビ オサエ	ハケメ		
88	深鉢	1984	G9d	Xa-6-9	夜白 I			7.9	Hue7.5YR8/2	Hue7.5YR4/1	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母・角閃石	ナデ	ナデ		
89	深鉢	1984	G9c	Xa-6-2	夜白 I			(4.8)	Hue5YR7/4	Hue5YR7/6	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ヨコミガキ		
90	深鉢	1984	H6	Xb-1	夜白 I			(9.4)	Hue10YR7/3	Hue10YR4/1	0.5mm 程度の白色砂粒・5mm 程度の石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ		
91	深鉢	1984	J7	Xb-2	夜白 I			(7.4)	Hue10YR8/2	Hue2.5Y4/1	0.5mm ~ 3mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ・ユビ オサエ	条痕・ユビ オサエ		
92	深鉢	1984	G6	Xb-1	夜白 I			9.2	Hue7.5YR8/4	Hue7.5YR8/4	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	○	
93	深鉢	1984	H6	Xb-1	夜白 I			(8.8)	Hue2.5YR7/8	Hue2.5YR7/8	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ・ユビ オサエ		
94	深鉢	1984	G7a	Xa-5-24	夜白 I			(7.2)	Hue7.5YR7/3	Hue7.5YR8/2	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ヨコナデ	ヨコナデ		
95	深鉢	1984	G6	Xb-1	夜白 I			(6.7)	Hue7.5YR4/1	Hue7.5YR8/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	ナデ		
96	壺	1984	G6	Xb-1	夜白 I				Hue5YR6/8	Hue2.5YR6/8	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ヨコミガキ	ナデ	○ ○	
97	深鉢	1984	I6	66ベルト IXa-1	紅辻・夜白	(23.0)			Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR7/4	0.5mm 程度の白色砂粒・多量の石英・雲母	条痕	条痕		
98	深鉢	1984	G7c	IXa-7-1	紅辻・夜白	(27.2)			Hue10YR4/1	Hue10YR6/2	0.5mm ~ 5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	条痕		
99	深鉢	1984	IJ78/J8	IXb-3-1	紅辻・夜白	(25.2)			Hue2.5YR6/6	Hue2.5YR6/6	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ミガキ		
100	深鉢	1984	J8	IXb-3-15	紅辻・夜白	16.8			Hue5YR3/1	Hue7.5YR7/4	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ		
101	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	紅辻・夜白	(19.9)			Hue7.5YR4/1	Hue7.5YR2/1	1mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ		
102	深鉢	1984	IJ78	IX-3-1	紅辻・夜白	(17.8)			Hue10YR5/2	Hue10YR3/2	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・やや多量の雲母	ナデ	ナデ		
103	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	紅辻・夜白	(16.6)			Hue7.5YR6/3	Hue7.5YR5/3	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母	ナデ	条痕		
104	深鉢	1984	B8	IXa-20	紅辻・夜白	14.2	14.5	6.7	Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ・ユビ オサエ		
105	深鉢	1984	H8b/G8d	IXa-10-14	紅辻・夜白				Hue10YR5/2	Hue7.5YR7/6	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	条痕		
106	深鉢	1984	F8c	IXa-4-19	紅辻・夜白				Hue2.5YR6/6	Hue7.5YR7/6	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ		
107	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	紅辻・夜白				Hue10YR2/1	Hue10YR5/1	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	条痕		
108	深鉢	1984	JK6東半	炭層下 IXb-3-1	紅辻・夜白				Hue10YR8/3	Hue7.5YR8/4	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ		
109	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	紅辻・夜白				Hue7.5YR3/1・ Hue2.5YR6/8	Hue10YR7/2	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	ナデ		
110	深鉢	1984	JK6東半	炭層下 IXb-3-1	紅辻・夜白				Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母	ナデ	ナデ		
111	深鉢	1984	I6	IXb-3-1土層 剥取	紅辻・夜白				Hue10YR5/1	Hue10YR7/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ミガキ	ミガキ		
112	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	紅辻・夜白				Hue10YR6/3	Hue10YR7/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	条痕		
113	深鉢	1984	JK56東半	炭直上 IXb-3-1	紅辻・夜白				Hue10YR6/2	Hue7.5YR8/4	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ		
114	深鉢	1984	I6	IXa-1	紅辻・夜白				Hue5YR7/3	Hue7.5YR2/1	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ		
115	深鉢	1984	I6	炭層下 IXb-3-1	紅辻・夜白	(20.6)	(28.0)		Hue10YR6/1	Hue10YR6/1	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・やや多量の石英・雲母・角閃石	条痕	条痕		
116	深鉢	1984	G9d	XI	紅辻・夜白	(15.8)	(9.6)		Hue7.5YR6/4	Hue7.5YR2/1	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	条痕	条痕		
117	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	紅辻・夜白				Hue10YR7/3	Hue10YR2/1	0.5mm ~ 3mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	条痕		
118	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 I	(35.2)	(38.2)		Hue7.5YR6/4	Hue5YR5/4	0.5mm ~ 3mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ		
119	深鉢	1984	I6	IXa-1-1	夜白 I	18.0	23.8		Hue5YR6/3	Hue10YR7/3	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・やや多量の雲母	条痕	ナデ		
120	深鉢	1984	J6/JK56	IXb-3-1	夜白 I				Hue10YR7/1	Hue7.5YR7/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	条痕		
121	深鉢	1984	IJ6	IXa-1	夜白 I	(23.1)			Hue5YR6/8	Hue5YR2/1	0.5mm 程度の白色砂粒・石英	条痕	条痕		
122	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 I				Hue7.5YR8/4	Hue10YR7/4	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・やや多量の雲母・角閃石	条痕	ナデ		
123	深鉢	1984	I6	IXa-1	夜白 I				Hue5YR7/8・ Hue10YR6/3	Hue5YR7/6	やや多量の3mm 程度の石英	条痕	条痕		
124	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 I				Hue10YR5/1	Hue10YR4/1	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	条痕	ナデ		
125	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 I				Hue10YR6/2	Hue10YR6/2	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ		
126	深鉢	1984	IJ78	IXb-3-1	夜白 I				Hue10YR4/2	Hue10YR6/3	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ		

番号	器種	調査年	地区	土層・遺構	型式	計測値(cm)内は復元径				色調		胎土	調整		丹塗り 外面内面
						口径	頭部径	胴部径	底径	外面	内面		外面	内面	
127	深鉢	1984	I6	IXa-1-1	夜白 I					Hue10YR4/1	Hue10YR4/1	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・やや多量の雲母	条痕	条痕	
128	深鉢	1984	J78	IXb-3-1	夜白 I					Hue10YR5/3	Hue10YR4/1	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
129	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 I					Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR8/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
130	深鉢	1984	IJ78	IXb-3-1	夜白 I					Hue10YR5/2	Hue10YR5/2	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・多量の雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
131	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 I	(35.0)				Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR7/4	0.5mm～3mm 程度の白色砂粒・石英・多量の雲母・角閃石	条痕	条痕	
132	深鉢	1984	JK56/G8c	IXb-3-1	夜白 IIa	(29.2)				Hue2.5YR6/8	Hue7.5YR3/1	0.5mm～3mm 程度の白色砂粒・石英・やや多量の雲母・角閃石	ナデ	条痕	
133	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 IIa					Hue5YR7/6	Hue5YR7/6	0.5mm～2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
134	深鉢	1984	J5	IXb-3-1	夜白 IIa					Hue7.5YR7/4	Hue10YR7/3	0.5mm～2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
135	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 IIb	(18.2)	(26.0)			Hue2.5Y4/1	Hue2.5Y3/1	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	条痕	
136	深鉢	1984	J5	IXb-3-1	夜白 IIb	(18.4)	(21.8)			Hue7.5YR8/4・ Hue10YR5/1	Hue10YR7/3	1mm～3mm 程度の石英・やや多量の雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
137	深鉢	1984	H5	IXb-3-1	夜白 IIb	(26.6)	(27.2)			Hue5YR6/6	Hue5YR6/6	0.5mm～3mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
138	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 IIb					Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm～1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	条痕	
139	深鉢	1984	J78	IXb-3-1	夜白 I					Hue10YR5/2	Hue7.5YR7/6	1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	条痕	
140	深鉢	1984	JK6東半	炭層下 IXb-3-1	夜白 I					Hue10YR7/4	Hue10YR7/4	0.5mm～3mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	条痕	
141	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 II					Hue7.5YR6/3	Hue7.5YR8/1	0.5mm～1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
142	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 II					Hue7.5YR8/6	Hue7.5YR7/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
143	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 II					Hue7.5YR7/3	Hue7.5YR8/4	0.5mm～2mm 程度の白色砂粒・5mm 程度の石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
144	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 II					Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm～1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	条痕	
145	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 II					Hue7.5YR7/4	Hue10YR7/4	やや多量の3mm 程度の石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
146	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 II					Hue7.5YR8/6	Hue10YR8/4	0.5mm 程度の白色砂粒・3mm 程度の石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
147	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 II					Hue10YR7/4	Hue10YR7/4	0.5mm～2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	条痕	
148	深鉢	1984	J5	IXb-3-1	夜白 II					Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
149	深鉢	1984	K5	IXb-3-1	夜白 IIb					Hue5YR5/3	Hue5YR6/4	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母	ナデ	条痕・ユビオサエ	
150	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 II					Hue10YR7/3	Hue10YR6/2	0.5mm～1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
151	深鉢	1984	G6	IX	夜白 II					Hue10R6/6	Hue2.5YR6/6	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
152	深鉢	1984	J8	IXb-3-15	夜白 II					Hue7.5YR4/4	Hue10YR5/3	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
153	深鉢	1984	JK56東半	炭直上 IXb-3-1	夜白	(20.0)				Hue5YR7/8	Hue5YR7/6	0.5mm～1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	ナデ	
154	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白	(23.0)				Hue10YR7/2	Hue10YR7/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	条痕	
155	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白					Hue10YR4/1	Hue10YR7/3	緻密・雲母	ナデ	ナデ	
156	板付祖型甕	1984	JK56	IXb-3-1	夜白					Hue10YR7/2	Hue5YR7/6	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
157	板付祖型甕	1984	J5	IXb-3-1	夜白					Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR7/4	0.5mm～1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
158	板付祖型甕	1984	JK56	IXb-3-1	夜白					Hue10YR5/1	Hue10YR7/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・やや多量の雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
159	板付祖型甕	1984	JK56	IXb-3-1	夜白					Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR7/4	0.5mm～2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
160	板付祖型甕	1984	JK56	IXb-3-1	夜白					Hue7.5YR4/2	Hue7.5YR7/4	0.5mm～1mm 程度の白色砂粒・石英・やや多量の雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
161	板付祖型甕	1984	JK56	IXb-3-1	夜白					Hue7.5YR4/1	Hue10YR7/2	0.5mm～3mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
162	板付祖型甕	1984	J6	IXb-3-1	夜白					Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm～2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
163	板付祖型甕	1984	J5	IXb-3-1	夜白					Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR7/4	0.5mm～1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
164	板付祖型甕	1984	JK56	IXb-7-1	夜白					Hue10YR6/2	Hue10YR6/2	0.5mm～2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	条痕	
165	板付祖型甕	1984	JK56	IXb-3-1	夜白					Hue10YR7/2	Hue7.5YR7/4	0.5mm～1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	条痕	
166	板付祖型甕	1984	JK56	IXb-3-1	夜白					Hue10YR7/2	Hue10YR7/2	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	条痕	
167	深鉢	1984	JK56	IXb-8-1	夜白 IIb					Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm～2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	条痕	
168	板付祖型甕	1984	JK56	IXb-3-1	夜白					Hue10YR2/1	Hue10YR5/2	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	条痕	ナデ	
169	板付祖型甕	1984	JK56	IXb-3-1	夜白					Hue10YR6/2	Hue10YR6/2	0.5mm～3mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	条痕	
170	板付祖型甕	1984	JK56	IXb-3-1	夜白					Hue7.5YR7/6	Hue7.5YR6/6	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
171	板付祖型甕	1984	JK56	IXb-3-1	夜白					Hue2.5YR6/6	Hue7.5YR6/4	0.5mm～2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
172	板付祖型甕	1984	JK56	IXb-3-1	夜白					Hue10YR4/1	Hue10YR7/3	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ハケメ	ナデ	
173	浅鉢	1984	IJ7/J8	IXb-3-1/15	江辻 SX1	(28.0)	(27.4)			Hue10YR6/1	Hue10YR4/1	緻密・石英・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
174	浅鉢	1984	J8	IXb-3-16	江辻 SX1	(22.4)	(27.2)			Hue10YR2/1	Hue10YR2/1	緻密・雲母	ヨコミガキ	ミガキ	
175	浅鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 I	(24.8)	(25.4)			Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	緻密・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
176	浅鉢	1984	I6	IXa-1-1	夜白 I					Hue2.5Y3/1	Hue2.5Y3/1	緻密・雲母	ナデ	ナデ	
177	浅鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 I					Hue7.5YR2/1	Hue10YR2/1	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
178	脚付浅鉢	1984	JK56/K6	IXb-3-1	夜白 I	(19.7)	(6.1)			Hue5YR7/6	Hue10YR7/3	0.5mm 程度の白色砂粒を少量含む・やや多量の雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
179	浅鉢	1984	IJ78	IXb-3-1	江辻 SX1	(16.8)				Hue10YR6/3	Hue10YR7/3	緻密・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
180	浅鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 I					Hue10YR7/3	Hue10YR7/2	0.5mm～2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	条痕	
181	浅鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 IIa					Hue10YR4/1	Hue10YR4/1	緻密・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
182	浅鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 IIb					Hue10YR3/1	Hue10YR3/1	緻密・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	



番号	器種	調査年	地区	土層・遺構	型式	計測値(cm)内は復元径			色調		胎土	調整		丹塗り 外面内面	
						口径	頭部径	胴部径	底径	外面		内面	外面		内面
183	浅鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 IIb					Hue10YR3/1	Hue10YR3/1	緻密・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
184	浅鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 IIb	(27.4)				Hue10YR5/1	Hue10YR5/1	0.5mm 程度の白色砂粒を少量含む・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
185	浅鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 IIb	(26.8)		(27.6)		Hue10YR6/2	Hue10YR4/1	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
186	浅鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 IIa					Hue10YR4/1	Hue10YR5/2	緻密・雲母・角閃石	条痕・ヨコミガキ	ヨコミガキ	
187	浅鉢	1984	J5	IXb-3-1	夜白 IIb					Hue10YR4/1	Hue10YR4/1	緻密・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
188	浅鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 IIb					Hue25Y4/1	Hue10YR2/1	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
189	浅鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 IIb					Hue5YR7/6	Hue7.5YR6/1	0.5mm 程度の白色砂粒・5mm 程度の石英・雲母	ナデ	ナデ	
190	浅鉢	1984	J7/IJ78	IXb-3-1	夜白	(32.6)		(9.0)		Hue7.5YR7/6・Hue10R6/8	Hue7.5YR7/6・Hue10R6/8	0.5mm ~ 3mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	条痕	ナデ	○ ○
191	鉢	1984	J7	IXb-3-2	夜白					Hue10YR6/3	Hue10YR6/3	緻密・石英・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	○ ○
192	鉢	1984	J6	IXb-3-1	夜白	(21.2)				Hue7.5YR6/4・Hue2.5YR6/8	Hue2.5YR6/8	緻密・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	○ ○
193	深鉢	1984	J7	IXb-3	夜白					Hue10YR5/2	Hue10YR5/2	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・やや多量の雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
194	鉢	1984	IJ78	IX-3-1	夜白					Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母	ナデ	ナデ	
195	壺	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 I	(12.0)	(12.5)			Hue10R6/8	Hue5YR7/4	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・多量の雲母	ヨコミガキ	ナデ	○
196	壺	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 I	(16.2)	(16.0)			Hue7.5YR2/1	Hue7.5YR7/4	1mm ~ 3mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
197	壺	1984	B8	IXa-18	夜白 I					Hue7.5YR6/3	Hue10YR7/3	緻密・雲母・角閃石	ナデ	ヨコミガキ	
198	壺	1984	J8	IXb-3-15	夜白 II	(18.2)	(15.2)			Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	1mm ~ 3mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ヨコミガキ	ナデ	
199	壺	1984	G7c	IXa-7-4	夜白 II	(15.4)	(13.1)			Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	1mm ~ 3mm 程度の白色砂粒・石英	ナデ	ナデ	
200	壺	1984	JK56	IXb-3-1	夜白 II					Hue10YR6/2	Hue10YR6/1	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ・ユビオサエ	
201	壺	1984	I6	IXa-1	夜白 II					Hue10R5/8	Hue7.5YR4/1	緻密・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	○ ○
202	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白			9.4		Hue10YR7/3	Hue10YR4/1	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
203	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白			9.1		Hue10YR6/2	Hue10YR6/2	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
204	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白			9.6		Hue10YR5/1	Hue10YR5/1	0.5mm ~ 3mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
205	深鉢	1984	I6	IXb-3-1土層剥取	夜白			9.5		Hue10YR6/2	Hue10YR6/2	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
206	深鉢	1984	JK5東半	炭層下 IXb-3-1	夜白			8.0		Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR4/1	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ・ユビオサエ	ナデ	
207	深鉢	1984	J7	IXb-3-1	夜白			8.8		Hue10YR7/3	Hue2.5Y4/1	0.5mm 程度の白色砂粒・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
208	深鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白			7.3		Hue10YR2/1	Hue10YR2/1	0.5mm ~ 3mm 程度の白色砂粒・やや多量の石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
209	深鉢	1984	JK6東半	炭層下 IXb-3-1	夜白			8.2		Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR7/4	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
210	浅鉢	1984	JK56	IXb-3-1	夜白			(7.0)		Hue10YR5/1	Hue10YR6/2	緻密	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
211	浅鉢/高坏	1984	G6	IX	夜白			(6.9)		Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR7/4	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
212	深鉢	1984	J8	VIII	夜白					Hue10YR7/2	Hue10YR5/1	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・多量の雲母・角閃石	ナデ	条痕	
213	深鉢	1984	J8	VIII	夜白					Hue7.5YR5/3	Hue7.5YR7/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・やや多量の雲母	条痕	ナデ	
214	深鉢	1984	J8	VIII	夜白					Hue7.5YR8/4	Hue5YR7/4	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	条痕	
215	深鉢	1984	J8	VIII	夜白					Hue7.5YR7/4	Hue10YR7/3	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・やや多量の雲母	ナデ	ナデ	
216	浅鉢	1984	J8	VIII	夜白					Hue7.5YR2/1	Hue5YR6/6	緻密・やや多量の雲母	ミガキ	ミガキ	
217	深鉢	1984	IJ78	VIII	夜白			8.4		Hue10YR6/3	Hue10YR5/2	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
218	深鉢	1984	J8	VIII	夜白			(8.4)		Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
219	深鉢	1984	J8	VII	夜白					Hue7.5YR7/6	Hue10YR7/3	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
220	深鉢	1984	IJ78	VII	夜白 I	(17.8)		(20.0)		Hue10YR3/1	Hue10YR3/1	緻密・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
221	深鉢	1984	G6	VII	夜白 IIb					Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	条痕	
222	深鉢	1984	G6	VII	夜白 IIb	(24.9)		(27.3)		Hue10YR7/3	Hue5YR7/6	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	条痕	
223	甕	1984	F6	VII-3	板付 Ia					Hue10YR6/2	Hue5YR7/6	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・やや多量の角閃石	ナデ	ナデ	
224	甕	1984	F6	VII-4	板付 Ia					Hue5YR6/8	Hue5YR6/8	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ハケメ	ハケメ	
225	甕	1984	F6	VII-10	板付 Ia					Hue5YR7/6	Hue7.5YR4/1	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ハケメ	
226	甕	1984	F6	VII-3	板付 Ib					Hue10YR5/2	Hue10YR2/1	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・多量の雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
227	甕	1984	F6	VII-10	板付 Ib					Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR7/4	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・やや多量の角閃石	ナデ	ナデ	
228	深鉢	1984	G6	VII	夜白					Hue7.5YR7/6	Hue5YR7/6	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
229	壺	1984	F6	VII-3	板付 IIa	(8.7)				Hue10YR6/3	Hue10YR6/3	緻密・雲母	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
230	壺	1984	F6	VII-11	板付 I	(24.0)				Hue10YR6/4	Hue10YR6/4	緻密・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
231	壺	1984	F6	VII-3	板付 I					Hue10YR8/4	Hue10YR8/4	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
232	壺	1984	G6	VII	板付 IIa	(13.8)				Hue7.5YR2/1	Hue7.5YR5/4	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
233	壺	1984	F6	VII-3右ベルト	板付 I	(16.4)				Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
234	壺	1984	F6	VII-10	板付					Hue10YR6/4	Hue10YR6/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ヨコミガキ	ナデ	
235	壺	1984	F6	VII-10/11	板付					Hue5YR7/6	Hue5YR7/6	0.5mm ~ 1mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
236	壺	1984	G6	VII	板付					Hue10YR3/1	Hue10YR4/1	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
237	壺	1984	F6	VII-5	板付					Hue10YR7/3	Hue10YR2/1	緻密・雲母	ヨコミガキ	ナデ	
238	高坏	1984	G45	VII-10	板付					Hue7.5YR8/4	Hue7.5YR8/4	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ヨコミガキ	ナデ	
239	深鉢	1984	C8	IV	夜白	(27.0)				Hue2.5YR6/8	Hue7.5YR7/4	0.5mm ~ 2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	条痕	

番号	器種	調査年	地区	土層・遺構	型式	計測値(cm)内は復元径			色調		胎土	調整		丹塗り 外面内面		
						口径	頸部径	胴部径	底径	外面		内面	外面		内面	
240	壺	1984	J5	III-2	夜白II	(15.8)				Hue5YR6/6	Hue7.5YR6/6	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、3mm程度の石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
241	壺	1984	F8d	III-2	夜白II	(14.2)				Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR2/1	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、3mm程度の石英、雲母、角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ		
242	壺	1984	K5	III-2	夜白II	(14.3)				Hue7.5YR7/6	Hue5YR6/8	0.5mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ	○	○
243	壺	1984	K5	III-2	夜白II	(20.4)				Hue5YR6/6	Hue7.5YR8/4	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	ヨコミガキ	ナデ	○	○
244	壺	1984	J5	III-2	夜白II	(20.1)				Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR7/4	0.5mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	ヨコミガキ	ナデ	○	○
245	壺	1984	J6	III-2	夜白I	(13.7)				Hue10YR7/3	Hue10YR2/1	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	板ナデ	板ナデ		
246	壺	1984	J6	III-2	夜白I					Hue7.5YR7/6	Hue10YR7/6	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、3mm程度の石英、雲母、角閃石	ヨコナデ	ヨコナデ		
247	壺	1984	JK6	III-2	夜白I					Hue10YR6/2	Hue10YR6/2	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、3mm程度の石英、多量の雲母、角閃石	ナデ	ナデ	○	○
248	壺	1984	K5	III-2	夜白I					Hue2.5YR6/8	Hue5YR7/8	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、2mm程度の石英、やや多量の雲母、角閃石	ナデ	ナデ	○	
249	壺	1984	JK6	III-2	夜白I					Hue10YR5/2	Hue10YR5/2	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、石英、やや多量の雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
250	壺	1984	J5	III-2	夜白I					Hue10YR6/2	Hue10YR5/1	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
251	壺	1984	J5	III-2	夜白II					Hue2.5Y7/1	Hue2.5Y7/1	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
252	壺	1984	J5	III-2	夜白II					Hue2.5YR6/8	Hue10YR6/4	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ	○	
253	壺	1984	J5	III-2	夜白II					Hue10YR7/6	Hue10YR2/1	0.5mm程度の白色砂粒、石英、やや多量の雲母、角閃石	ナデ	ハケメ		
254	浅鉢	1984	F8d	III-2						Hue10YR6/6	Hue10YR6/3	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、2mm程度の石英、雲母、角閃石	条痕	条痕	○	
255	浅鉢	1984	K6	III-2	夜白II					Hue10YR4/1	Hue10YR4/1	0.5mm程度の白色砂粒、2mm程度の石英、やや多量の雲母、角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ		
256	浅鉢	1984	F8	III-2	夜白I	(18.4)	(20.8)			Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm~2mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	条痕	条痕		
257	浅鉢	1984	J6	III-2	江辻SX-1					Hue10YR3/1	Hue10YR3/1	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、1mm程度の石英、雲母、角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ		
258	浅鉢	1984	K5	III-2	夜白II					Hue10YR2/1	Hue10YR2/1	0.5mm程度の白色砂粒、2mm程度の石英、やや多量の雲母、角閃石	ヨコミガキ	ナデ		
259	鉢	1984	J6	III-2		(13.3)		(5.2)		Hue10YR7/3	Hue10YR2/1	0.5mm程度の白色砂粒、1mm程度の石英、雲母、角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ		
260	浅鉢	1984	K5	III-2	夜白II	(26.4)				Hue2.5Y6/2	Hue2.5Y6/2	0.5mm程度の白色砂粒、石英、雲母	ナデ	ヨコミガキ		
261	浅鉢/高坏	1984	KL7	III-2						Hue5YR5/3	Hue5YR5/3	0.5mm程度の白色砂粒、石英、やや多量の雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
262	深鉢	1984	K78	2号土壙墓内		(23.6)				Hue10YR7/3	Hue10YR5/2	0.5mm程度の白色砂粒、1mm程度の石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
263	深鉢	1984	KL8	III-2	夜白I	(29.4)				Hue2.5Y4/1	Hue10YR2/1	0.5mm程度の白色砂粒、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
264	深鉢	1984	I78	III-2	夜白I					Hue10YR6/3・Hue10YR5/1	Hue10YR5/1	0.5mm程度の白色砂粒、1mm程度の石英、やや多量の雲母、角閃石	条痕	ナデ		
265	深鉢	1984	JK6	III-2	夜白I					Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR2/1	0.5mm程度の白色砂粒、3mm程度の石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
266	深鉢	1984	JK5	III-2	夜白I					Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm程度の白色砂粒、1mm程度の石英、雲母、角閃石	条痕	ナデ		
267	深鉢	1984	J6	III-2	夜白I					Hue10YR2/1	Hue7.5YR6/4	0.5mm程度の白色砂粒、2mm程度の石英、やや多量の雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
268	深鉢	1984	J6	III-2	夜白IIa					Hue10YR4/2	Hue10YR6/3	0.5mm~3mm程度の白色砂粒、3mm程度の石英、雲母、角閃石	ナデ	条痕		
269	深鉢	1984	J5	III-2	夜白IIa					Hue5YR7/4	Hue5YR7/6	0.5mm~2mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
270	深鉢	1984	J5	III-2	夜白IIa					Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR7/4	0.5mm程度の白色砂粒、1mm程度の石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
271	深鉢	1984	J5	III-2	夜白IIb					Hue10YR7/2	Hue10YR7/2	0.5mm程度の白色砂粒、1mm程度の石英、雲母、角閃石	条痕	条痕		
272	深鉢	1984	J6	III-2	夜白IIb					Hue7.5YR7/4	Hue10YR7/3	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、1mm程度の石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
273	深鉢	1984	K6	III-2	夜白IIb					Hue7.5YR7/4	Hue10YR7/3	0.5mm程度の白色砂粒、1mm程度の石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
274	深鉢	1984	J5	III-2	夜白IIb					Hue10YR7/2	Hue10YR2/1	0.5mm程度の白色砂粒、1mm程度の石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
275	深鉢	1984	J6	III-2	夜白I	(25.9)				Hue5YR7/6	Hue2.5YR7/8	0.5mm程度の白色砂粒、3mm程度の石英、雲母、角閃石	ナデ	条痕		
276	深鉢	1984	J6	III-2	夜白IIb	(20.4)	(13.0)			Hue7.5YR7/6	Hue7.5YR2/1	0.5mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	条痕	条痕		
277	深鉢	1984	J78	III-2	夜白IIb	(18.0)	(19.0)			Hue7.5YR7/4	Hue2.5YR6/4	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
278	深鉢	1984	J5	III-2	夜白IIb	(18.9)	(22.2)			Hue5YR2/1	Hue10YR7/2・Hue10YR3/1	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
279	深鉢	1984	JK56	III-2	夜白IIb	(19.7)	(21.6)			Hue5YR7/6・Hue10YR7/2	Hue7.5YR8/4	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、5mm程度の石英、やや多量の雲母、角閃石	擦痕	ナデ		
280	深鉢	1984	K5	III-2	夜白IIb	(17.9)	(18.4)			Hue7.5YR4/2	Hue7.5YR5/3	0.5mm程度の白色砂粒、5mm程度の石英、やや多量の雲母、角閃石	条痕	ナデ		
281	深鉢	1984	I5	III-2	夜白IIb	(20.8)	(21.6)			Hue10YR7/3	Hue10YR7/2	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
282	深鉢	1984	K5	III-2	夜白IIb	(18.8)	(19.6)			Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm程度の白色砂粒、3mm程度の石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
283	深鉢	1984	K5	III-2	夜白IIb	(25.6)	(25.2)			Hue10YR5/2	Hue10YR6/2	0.5mm程度の白色砂粒、3mm程度の石英、やや多量の雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
284	深鉢	1984	J5	III-2	夜白IIb	(21.1)	(21.4)			Hue10YR6/4	Hue10YR6/4	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
285	深鉢	1984	JK5	III-2	夜白IIb	(17.4)				Hue7.5YR6/4	Hue10YR7/4	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、石英、やや多量の雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
286	深鉢	1984	J6	III-2	夜白IIb	(19.4)	(20.0)			Hue7.5YR8/6	Hue7.5YR8/8	0.5mm~1mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
287	深鉢	1984	K8	III-2	夜白I					Hue10YR6/2	Hue10YR6/1	0.5mm程度の白色砂粒、石英、やや多量の雲母、角閃石	ナデ	ナデ		
288	深鉢	1984	JK6	III-2	夜白I		(25.0)			Hue10YR4/1	Hue7.5YR6/4	0.5mm程度の白色砂粒、石英、やや多量の雲母	ナデ	ナデ		
289	深鉢	1984	K6	III-2	夜白IIa					Hue7.5YR7/3	Hue10YR8/4	0.5mm~2mm程度の白色砂粒、石英、雲母、角閃石	ナデ	ナデ	○	

番号	器種	調査年	地区	土層・遺構	型式	計測値 (cm) 〇内は復元径				色調		胎土	調整		丹塗り
						口径	頸部径	胴部径	底径	外面	内面		外面	内面	
290	深鉢	1984	J56	III-2	夜白 IIa					Hue10R6/6	Hue2.5YR7/6	0.5mm程度の白色砂粒・3mm程度の石英・雲母	ナデ	条痕	
291	深鉢	1984	J6	III-2	夜白 IIa					Hue5YR6/6	Hue7.5YR2/1	緻密・1mm程度の石英・雲母・角閃石	条痕	条痕	
292	深鉢	1984	K5	III-2	夜白 IIb					Hue10YR7/4	Hue5YR7/6	0.5mm～1mm程度の白色砂粒・3mm程度の石英・角閃石	ナデ	ナデ	
293	深鉢	1984	K5	III-2	夜白 IIb					Hue5YR7/6	Hue5YR7/6	0.5mm程度の白色砂粒・3mm程度の石英やや多量の雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
294	深鉢	1984	J5	III-2	夜白 IIb					Hue10YR5/3	Hue7.5YR7/6	0.5mm程度の白色砂粒・1mm程度の石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
295	深鉢	1984	J5	III-2	夜白 IIb					Hue7.5YR7/6	Hue10YR7/4	0.5mm程度の白色砂粒・3mm程度の石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
296	深鉢	1984	JK56	III-2	夜白 IIb					Hue7.5YR6/3	Hue7.5YR7/3	0.5mm～3mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
297	浅鉢	1984	J6	III-2	江注 SX-1			(25.9)		Hue10YR6/3	Hue10YR6/3	0.5mm～1mmの白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
298	板付祖型甕	1984	J5	III-2	夜白					Hue10YR5/2	Hue10YR6/3	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
299	板付祖型甕	1984	K5	III-2	夜白					Hue10YR8/3	Hue10YR7/2	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
300	板付祖型甕	1984	J6	III-2	夜白					Hue10YR6/3	Hue10YR6/3	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
301	板付祖型甕	1984	JK5	III-2	夜白					Hue10YR7/3	Hue10YR7/1	0.5mm～1mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
302	板付祖型甕	1984	J6	III-2	夜白					Hue7.5YR7/6	Hue7.5YR7/4	0.5mm～1mm程度の白色砂粒・1mm程度の石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
303	板付祖型甕	1984	K5	III-2	夜白			(15.5)		Hue7.5YR6/4	Hue7.5YR6/4	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
304	板付祖型甕	1984	K5	III-2	夜白			(18.6)		Hue10YR7/2	Hue10YR7/2	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ	ナデ	
305	板付祖型甕	1984	K78	III-1	夜白			(16.6)		Hue7.5YR7/4	Hue10YR3/2	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ハケメ	ハケメ	
306	板付祖型甕	1984	J5	III-2	夜白			(17.6)		Hue7.5YR3/1	Hue10YR8/4	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
307	板付祖型甕	1984	K5	III-2	夜白			(18.4)		Hue10YR3/2	Hue10YR6/4	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
308	甕	1984	J5	III-2	板付 Ib			(18.4)		Hue5YR7/4	Hue7.5YR7/6	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
309	甕	1984	J5	III-2	板付 Ia					Hue10YR7/4	Hue7.5YR7/4	0.5mm～1mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ハケメ	ナデ	
310	甕	1984	J6	III-2	板付 Ib					Hue10YR7/4	Hue10YR2/1	緻密・雲母・角閃石	条痕	条痕	
311	甕	1984	F6	III-2	板付 IIa			(21.0)		Hue7.5YR6/6	Hue7.5YR7/6	0.5mm～2mm程度の白色砂粒・2mm程度の石英・雲母・角閃石	ハケメ	ハケメ	
312	深鉢	1984	J78	III-2	夜白					Hue7.5YR7/6	Hue5YR7/8	0.5mm～1mm程度の白色砂粒・1mm程度の石英・やや多量の雲母・角閃石	条痕	条痕	
313	壺	1984	JK56	III-2	夜白					Hue2.5YR6/8	Hue5YR6/6	0.5mm～1mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
314	深鉢	1984	J6	III-2	夜白 IIb					Hue7.5YR7/4	Hue10YR7/3	0.5mm程度の白色砂粒・1mm程度の石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
315	深鉢	1984	J5	III-2	夜白 IIb					Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	条痕	
316	壺	1984	不明	不明	夜白 I	(6.9)				Hue5YR7/8	Hue5YR7/8	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ヨコミガキ	ナデ・条痕	○ ○
317	板付祖型甕	1984	J5	堀込内	夜白					Hue7.5YR5/4	Hue7.5YR5/4	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
318	壺	1984	J5	堀込内	夜白 II					Hue7.5YR4/1	Hue10YR7/4	0.5mm～1mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ハケメ	ナデ	
319	壺	1984	不明	不明	板付 I					Hue2.5YR5/4	Hue10YR6/3	0.5mm～1mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ	○ ○
320	壺	1984	J5	堀込内	夜白 II					Hue10YR7/1	Hue10YR7/1	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	○ ○
321	浅鉢	1984	JK56壁面清掃	不明	夜白 IIb					Hue10YR2/1	Hue10YR2/1	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
322	浅鉢	1984	B7	不明						Hue5YR7/6	Hue5YR7/6	0.5mm程度の白色砂粒・雲母・角閃石	条痕	条痕	
323	浅鉢	1984	JK	不明	夜白 I					Hue5YR7/6	Hue5YR7/6	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	口縁部ヨコミガキ・他ナデ	ヨコミガキ	
324	浅鉢	1984	G6	貝層中下部	夜白 I	(21.0)		(20.5)		Hue10YR7/4	Hue10YR7/4	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
325	浅鉢	1984	不明	不明	夜白 IIa	(17.8)		(18.8)		Hue10YR7/3	Hue10YR5/2	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
326	鉢	1984	J8	不明	夜白	(17.6)				Hue2.5Y6/1	Hue10YR8/2	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
327	鉢	1984	不明	不明	夜白	(9.0)				Hue10R4/3・Hue10R7/1	Hue7.5YR7/1	緻密・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	○
328	鉢	1984	J678	Subtr	板付	11.0		(6.3)		Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR7/4	0.5mm～2mm程度の白色砂粒・3mm程度の石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
329	深鉢	1984	I678	不明	夜白					Hue7.5YR7/4	Hue7.5YR6/4	0.5mm～1mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
330	深鉢	1984	K78	Subtr	夜白					Hue10YR6/2	Hue10YR7/2	0.5mm～1mm程度の白色砂粒・石英・やや多量の雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
331	深鉢	1984	F56	Subtr	夜白	(28.0)				Hue10YR3/1	Hue7.5YR7/4	1mm～2mm程度の白色砂粒・石英・やや多量の雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
332	深鉢	1984	J5	堀込内	夜白 IIa					Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm～2mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	ナデ	
333	深鉢	1984	J5	堀込内	夜白 II					Hue7.5YR6/3	Hue7.5YR6/3	0.5mm～1mm程度の白色砂粒・やや多量の1mm程度の石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
334	深鉢	1984	J5	堀込内	夜白 IIb	(18.9)		(19.6)		Hue10YR7/4	Hue10YR7/4	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
335	深鉢	1984	H5	不明	夜白 II					Hue10YR5/3	Hue7.5YR7/6	0.5mm～1mm程度の白色砂粒・石英・やや多量の雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
336	深鉢	1984	J678	Subtr	夜白 II					Hue10YR5/1	Hue2.5Y5/1	0.5mm～1mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
337	深鉢	1984	J678	Subtr	夜白 IIb					Hue10YR6/1	Hue10YR6/1	0.5mm程度の白色砂粒・石英・やや多量の雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
338	深鉢	1984	J678	Subtr	夜白 IIb					Hue7.5YR6/3	Hue7.5YR6/3	0.5mm～2mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
339	深鉢	1984	F7	不明	夜白 IIb					Hue7.5YR8/4	Hue7.5YR8/2	0.5mm～1mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
340	深鉢	1984	J678	Subtr	夜白 IIb					Hue7.5YR7/3	Hue10YR6/2	0.5mm～2mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	

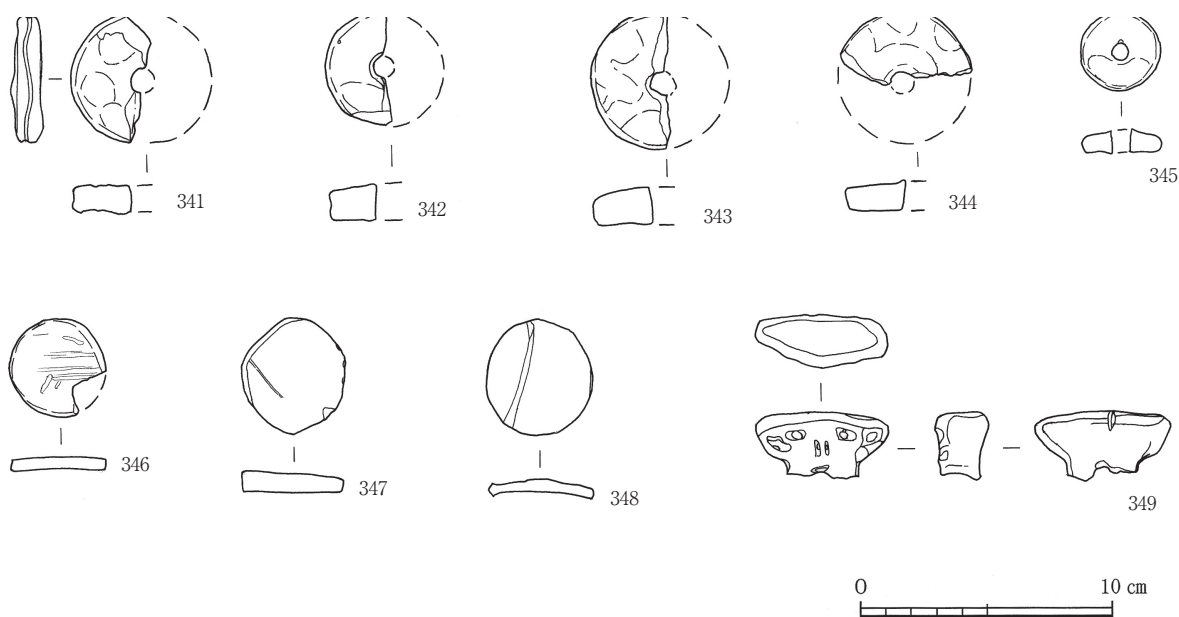


図51 1984年調査出土土製品 (縮尺1/3)

表5 1984年調査出土土製品観察表

番号	器種	調査年	地区	土層・遺構	計測値 (cm) ()内は復元径				色調		胎土	調整	
					口径	頸部径	胴部径	底径	外面	内面		外面	内面
341	紡錘車	1984	JK56	IX-3-1	直径 (5.5)・厚1.3・重19.0g	Hue7.5YR6/4	Hue7.5YR6/4	0.5mm 程度の白色砂粒・石英・雲母	ナデ・ユビ オサエ	ナデ・ユビ オサエ			
342	紡錘車	1984	G7	不明	直径 (4.6)・厚1.5・重18.7g	Hue7.5YR6/4	Hue7.5YR6/4	2mm 程度の石英・0.5mm程度の白色砂粒・雲母・角閃石	ナデ・ユビ オサエ	ナデ・ユビ オサエ			
343	紡錘車	1984	G10	不明	直径 (5.4)・厚1.5・重26.6g	Hue7.5YR6/3	Hue7.5YR6/3	1mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ・ユビ オサエ	ナデ・ユビ オサエ			
344	紡錘車	1984	JK6	III-2	直径 (5.2)・厚1.2・重18.1g	Hue10YR7/3	Hue10YR7/3	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ・ユビ オサエ	ナデ・ユビ オサエ			
345	紡錘車	1984	不明	IX-b	直径3.2・厚0.9・重9.7g	Hue7.5YR5/4	Hue7.5YR5/4	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ・ユビ オサエ	ナデ・ユビ オサエ			
346	円盤状 土製品	1984	G9c	IV-4	直径 (3.9)・厚0.5・重7.6g	Hue10YR7/2	Hue10YR7/2	0.5mm程度の白色砂粒・石英・角閃石・やや多量の雲母	ナデ・工具 痕	ナデ			
347	円盤状 土製品	1984	J8	IXb-3-15	直径4.5・厚0.8・重18.9g	Hue10YR5/1	Hue7.5YR5/3	2mm 程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ			
348	円盤状 土製品	1984	J7	Xb-4	直径4.2・厚0.5・重13.8g	Hue2.5YR6/8	Hue2.5YR6/8	2mm程度の石英・0.5mm程度の白色砂粒・雲母・角閃石	ナデ	ナデ			
349	土偶	1984	JK78	III-2	幅 (5.2)・高 (2.6)	Hue10YR5/1	Hue10YR5/1	1~3mm程度の白色砂粒・石英・0.5mm 程度の雲母	ナデ	ナデ			

部ならびに胴部屈曲部の突帯文にV字型刻目が施され、胴部屈曲部が直立する夜白Ⅱb式新段階である。358は口唇外面にV字形刻目が施される板付祖型甕である。356と357は唐津地域の地域性を示すものであり、これら「展示資料」が、宇木汲田貝塚のものと考えられる根拠の一つである。358は口唇部が面取りされ、口唇外面端部にV字形刻目が施される。外面に条痕調整の痕跡が認められ、板付祖型甕が在地的に変化したものと考えられる。359は口唇に刻目が施され、口縁外面直下に縦方向のハケ目が施される板付Ⅰa式の甕である。360は口唇端部外面に刻目が施される板付Ⅰb式の甕である。

361・362は浅鉢である。361は口縁が短く外反する夜白Ⅰ式の浅鉢。362は逆「く」の字形口縁浅鉢である。頸部屈曲部からの立ち上がりが短くなった夜白Ⅱa式である。

## 5. まとめ

日仏合同調査資料 (1956・1966年調査) ならびに1984年調査資料のうち、江辻SX-1段階から板付Ⅰ・Ⅱa式段階までの資料を悉皆的に報告してきた。以下、宇木汲田貝塚の土器型式と層位的な関係



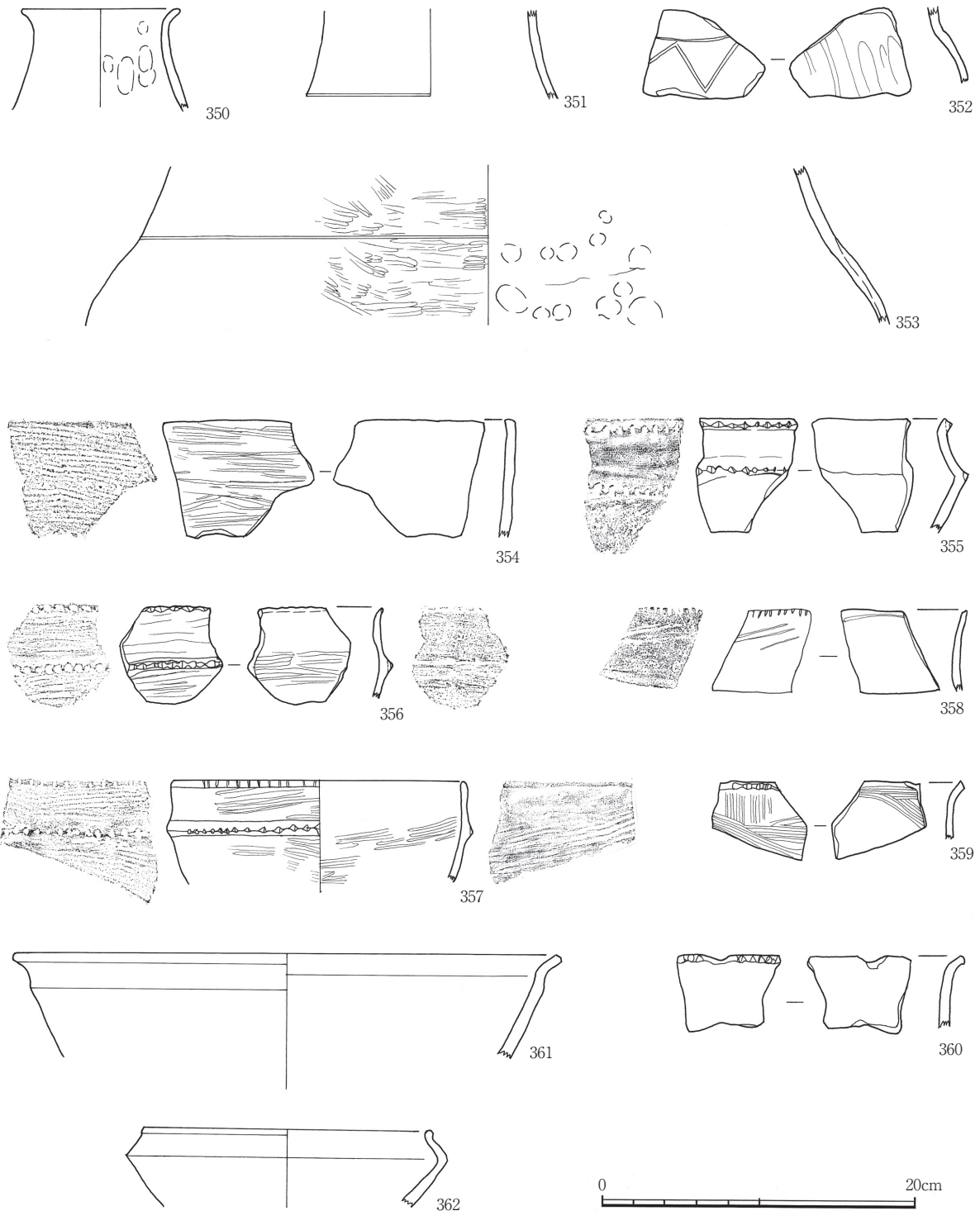


図52 「展示資料」 土器

を明らかにし、貝塚層であるX層とIX層の帰属年代を明らかにしたい。

日仏合同調査資料は、G6・H6・I6・J6・G4区の調査資料からなり、板付式の貝層である1984年調査のⅦ層以下をまとめて黒色土層と呼んでいる。これは、分層発掘が行われた1984年調査の層位に対応させれば、Ⅶ層～Ⅺ層までに対応しており、板付Ⅰ式段階と夜臼単純層が混在した状況で同一層として黒色土層と呼ばれたことを意味している。したがって、日仏合同調査資料は、夜臼単純層と板付式Ⅰ式を層位的に区分することは困難であり、型式学的区分でしか扱えない資料である。



表6 「展示資料」 土器観察表

番号	器種	調査年	地区	土層・遺構	型式	計測値 (cm) ( )内は復元径				色調		胎土	調整		丹塗り
						口径	頸部径	胴部径	底径	外面	内面		外面	内面	
350	壺	不明	不明	不明	夜白 II	(10.2)				Hue7.5YR6/3	Hue7.5YR6/3	0.5mm~1mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ・ユビオサエ	
351	壺	不明	不明	不明	板付 IIa	(16.2)				Hue10YR4/4	Hue10YR4/4	0.5mm程度の石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
352	壺	不明	不明	不明	板付 IIa					Hue10YR4/6	Hue10YR4/6	0.5~2mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ナデ	ナデ・ユビオサエ	
353	壺	不明	不明	不明	板付 IIa		(44.2)	(51.2)		Hue2.5YR5/8	Hue2.5YR5/6	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ミガキ	ナデ・ユビオサエ	○
354	深鉢	不明	不明	不明	夜白					Hue10YR6/2	Hue10YR6/2	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	ナデ	
355	深鉢	不明	不明	不明	夜白 IIa					Hue7.5YR7/6	Hue7.5YR7/6	1~4mm程度の石英・0.5mm程度の白色砂粒・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
356	深鉢	不明	不明	不明	夜白 IIb					Hue7.5YR6/6	HueN2/	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	条痕	ナデ・条痕	
357	深鉢	不明	不明	不明	夜白 II	(19.0)		(20.6)		Hue10YR7/2	Hue10YR7/2	1~2mm程度の石英・0.5mm程度の白色砂粒・雲母・角閃石	条痕	条痕	
358	板付祖型甕	不明	不明	不明	夜白	(34.8)				Hue7.5YR6/4	Hue7.5YR6/4	1~3mm程度の石英・0.5mm程度の白色砂粒・雲母・角閃石	条痕	ナデ	
359	甕	不明	不明	不明	板付 Ia	(18.4)				Hue5YR6/4	Hue5YR6/4	0.5mm程度の白色砂粒・石英・雲母・角閃石	ハケメ	ハケメ・ナデ	
360	甕	不明	不明	不明	板付 Ib					Hue7.5YR5/4	Hue7.5YR5/4	1~2mm程度の石英・0.5mm程度の白色砂粒・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
361	浅鉢	不明	不明	不明	夜白 I					Hue7.5YR6/4	Hue7.5YR6/4	1mm程度の石英・0.5mm程度の白色砂粒・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	
362	浅鉢	不明	不明	不明	夜白 IIa					Hue10YR6/3	Hue10YR7/4	1mm程度の石英・0.5mm程度の白色砂粒・雲母・角閃石	ハケメ	ハケメ	

一方、1984年調査では、弥生前期板付 I 式・II a 式の貝層である VI 層と、IX・X 層の夜白単純層の貝層との間に、VII・VIII 層の間層を挟んで堆積している。VIII 層は遺物がごく僅かであるが、X 層から VIII 層までは夜白単純層であり、VII 層に板付 I・II a 式が出現しており、明確に夜白単純期と板付 I 式を層位的に区分することができる。また日仏合同調査が対象とした VI 層が弥生前期の板付 I・II a 式の貝層であるのに対し、下位に位置する IX・X 層が夜白式単純期の貝層であることが明らかとなった。問題は、IX・X 層が夜白式の時期区分である夜白 I 式と夜白 II 式に対応するように時期区分できるかにある。また、炭化米の年代が IX 層と X 層で同一の年代値を示したことから、炭化米など炭化物の含有が X 層の方が多いため、本来 X 層に含まれた炭化米が IX 層堆積時に、下位に位置する X 層を巻き込みながら再堆積したものと考え、IX 層の炭化米は本来 X 層のものと考えた（宮本2018）。巻首図版 2・図版 2 に示すように、G7~G9 区の X・IX 層の貝層の堆積環境は、IX a 層の貝層が破碎された貝からなる混貝土層であるのに対し、X a 層は貝層ブロックからなる安定した貝塚堆積を示している。貝層の堆積環境からも、X a 層の貝層を巻き込んでそれらの貝が破碎されて再堆積したのが IX a 層の混貝土層と考えることができるであろう。

こうした仮説を、土器の分析からも検証することにしたい。そのため、貝層である夜白単純層の X・IX 層と、その下位に位置する XI 層、さらに間層を挟んで板付 I・II a 式が出土する VII 層の各層の土器型式（図53）を検討することにしたい。既に、土器の説明で行ったように、XI 層から IX 層には、江辻 SX-1 段階、夜白 I 式、夜白 II a 式、夜白 II b 式古段階、夜白 II b 式新段階といった型式区分が可能である。西日本の縄文晩期の刻目突帯文土器については、泉拓良以来、浅鉢の型式を基に広域編年の平行関係が捉えられてきた（泉1990・宮地2004・2007）。この広域編年を基に、北部九州では宮地聡一郎によって、長行（I a 期）、江辻 SX-1（I b 期）、夜白 I（II a 期）、夜白 II a（II b 期古段階）、夜白 II b（II b 期新段階）といった編年が提示されている（宮地2008）。筆者は福岡平野における板付遺跡や有田遺跡の土器分析によって、夜白 I 式~夜白 II 式・板付 I 式を板付 I 段階~板付 IV 段階の 4 期に区分したが（宮本2011）、宮地聡一郎のものとはほぼ同じ段階区分になっている。

X・IX 層の貝層下位には、貝類を含まない黒褐色砂質シルト層である XI 層が堆積している。XI 層からの出土遺物はごく僅かである。この中で、広域編年の基準となる浅鉢（図53-60）が出土している。逆「く」の字形口縁浅鉢であり、屈曲部からの立ち上がりはやや短い、江辻 SX-1 段階の浅鉢（宮地2007）と考えられる。

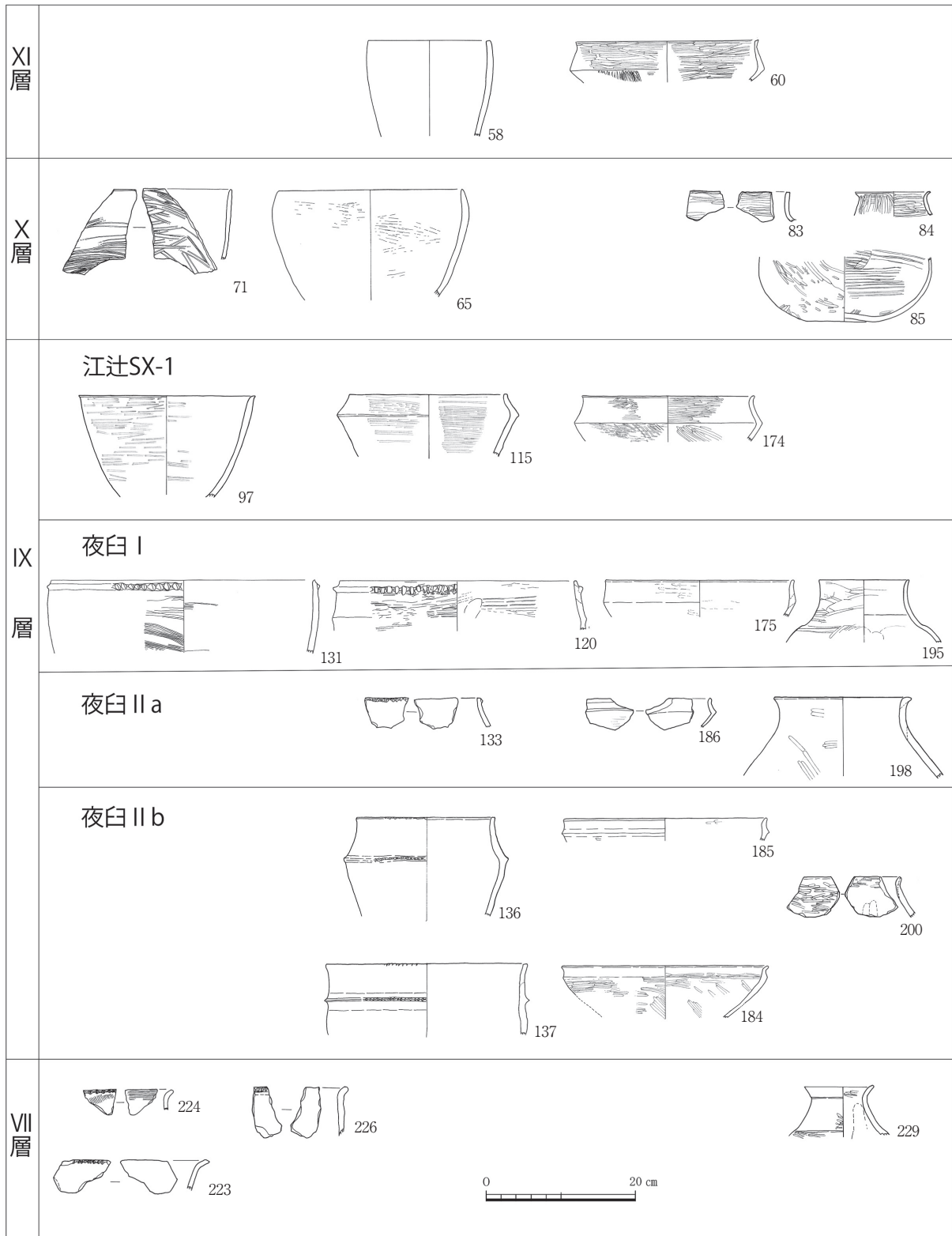


図53 宇木汲田貝塚の層位的土器型式（縮尺1/8）

X層は貝層ブロックなどの貝塚層であるが、出土遺物は少ない。この中であって壺が出土している（図53-83~85）。壺は江辻SX-1には存在しない（粕屋町教育委員会1998）。その点からも、X層は明らかに江辻SX-1段階より新しい段階のものである。図53-83のように短い口縁が直立するものや、

表7 宇木汲田貝塚の層位と出土土器型式の対応

宇木汲田遺跡		福岡平野	
XI層	江辻 SX-1	江辻 SX-1	
X層	夜白 I	板付 I	夜白 I
IX層	夜白 II a	板付 II	夜白 II a
	夜白 II b 古段階	板付 III	夜白 II b
	夜白 II b 新段階	板付 IV	夜白 II b・板付 I
VII層	板付 I	板付 V	板付 I

胴部最大径が胴部下部にあり下膨れの形態を示す同85のような壺の下半部は、夜白 I 式の特徴を示している。同84の胴部から内傾気味に立ち上がり口縁端部が外反する小型壺の形態も、夜白 I 式に属するものである。深鉢には刻目突帯文土器がみられないが、これは本 X 層の出土土器が少ないことに起因し、本来存在するはずであると考えられる。一方、深鉢には、黒川式系統の刻目突帯文を持たない条痕地の深鉢が認められる（図53-65・71）。

IX層は豊富な土器量が存在する。これらの土器群を型式学的に区分すると、江辻 SX1、夜白 I 式、夜白 II a 式、夜白 II b 式に分類することができる。

江辻 SX-1段階は図53-97の直口口縁の条痕地の深鉢、同115の頸部屈曲形の条痕地の深鉢である。これらは黒川式土器系統の深鉢である。江辻 SX-1段階には、頸部屈曲形で口縁に O 字形刻目が施される 1 条突帯ないし 2 条突帯を持つ刻目突帯文深鉢が存在するが、IX層には同一タイプの刻目突帯文深鉢は存在しない。浅鉢は、XI層と同じ型式の逆「く」の字形口縁の浅鉢である同174が存在する。屈曲部から立ち上がる口縁の長さや口縁端部の外反の度合いも、両者はほぼ同一である。

夜白 I 式は、口唇からやや下がったところに菱形刻目の突帯文が施される刻目突帯文土器深鉢である。この段階の深鉢は、砲弾形の 1 条突帯文深鉢（図53-131）と屈曲形口縁の 2 条突帯ないし 1 条突帯の深鉢（120）である。夜白 I 式の浅鉢も逆「く」字形口縁の浅鉢（同175）であるが、屈曲部の立ち上がり江辻 SX-1段階よりも短くなっている。壺は口縁が短く直立するもの（同195）で、X層の壺（同83）と同じ型式の特徴を示す。

夜白 II a 式は、口唇に接して D 字形刻目の突帯文が施される 2 条突帯文の刻目突帯文土器深鉢（図53-133）が特徴をなす。浅鉢は、逆「く」の字口縁浅鉢で、口縁屈曲部からの立ち上がりが夜白 I 式よりさらに短くなっている（同186）。壺は、夜白 I 式より口縁の立ち上がりが伸び、口縁端部が若干外反するものである（同198）。

夜白 II b 式の刻目突帯文土器深鉢は、口唇の突帯が消失し、V 字形刻目のみが施される唐津平野の地域的なものである。この刻目突帯文土器深鉢は、口縁が屈曲しているもの（図53-136）から屈曲部がなくなり直立するような器形変化（同137）を示す。前者が夜白 II b 式古段階、後者が夜白 II b 式新段階である。夜白 II 式の浅鉢は、逆「く」の字口縁浅鉢の系譜にあり、夜白 II a 式より口縁屈曲部からの立ち上がりがさらに短くなる（同185）。これが夜白 II b 式古段階に相当する浅鉢であるが、口縁屈曲部からさらに短い立ち上がりが外反する浅鉢（同184）が、その変化型式であり、夜白 II b 式新段階に相当する。夜白 II b 式の壺は、夜白 II a 式の壺と同じように口縁が内傾気味に立ち上がって、口縁端部が直立することなく若干外反するものである（同200）。

このように、IX層は型式学的には江辻 SX-1段階、夜白 I 式段階、夜白 II a 式段階、夜白 II b 式段階が存在する。既に説明したように最下層の XI 層は江辻 SX-1段階であり、次の X 層は夜白 I 式段階である。これら下位の層の土器型式が含まれていることは、X層を巻き込んで再堆積しているという所見からも、当然ありうることである。層位間の型式の差し引きからすれば、IX層は夜白 II a 式と夜白

Ⅱb式段階のものと考えられる。この場合、Ⅸ層は貝層のⅨa層と貝層を含まないⅨb層に分かれている。さらにⅨb層はⅨa層の南および南西側に広がり、堆積位置を異にしている。表4によれば、Ⅸa層は少数ではあるが江辻SX-1、夜臼Ⅰ段階までに限られ、Ⅸb層はさらに夜臼Ⅱa・Ⅱb式段階までを含んでいる。貝層のⅨa層は、夜臼Ⅰ式の貝層Ⅸa層と同じ時期であり、両層に同時期の炭化米が含まれることになる。さて、Ⅶ層の板付Ⅰ式甕は、直口した口縁が若干外反し、口唇部に刻目が施されるとともに、口縁外面には縦方向のハケ目や板ナデが施される（図53-223・224・226）。こうした板付甕は、Ⅸ層の板付祖型甕からの系譜で成立したとは考えられない。一方で、壺は夜臼Ⅱb式の壺の口縁部形態に、口縁部が肥厚し段をなすとともに頸部にも段が生ずる型式変化を遂げる。さらにこの段が沈線文に変化する板付Ⅱa式の壺（同229）に変化する。こうした板付Ⅰ・Ⅱa式の壺もⅨ層の壺からの系譜での成立を想定するのは難しい。Ⅸ層の夜臼Ⅱb式とⅦ層の板付Ⅰ式の間には、土器の型式変化の系譜関係にヒアタスが存在している。

板付Ⅰ式は、福岡平野において夜臼式段階の板付祖型甕から成立したと考えた（宮本2011・2017）。それは、板付Ⅳ段階である夜臼Ⅱb式新段階においてである。表7に示すように、板付Ⅳ段階は、夜臼Ⅱb式の刻目突帯文土器深鉢と板付Ⅰ式甕が共伴する段階である。この段階の福岡平野の夜臼Ⅱb式新段階の刻目突帯文土器深鉢は、口縁部と屈曲部にV字形刻目の突帯文が施されるものであるが、頸部の屈曲部は消失して直立するように器形変化している（宮本2011・2017）。この形態的な特徴は、宇木汲田貝塚Ⅸ層の夜臼Ⅱb式新段階にも認められる。また、この段階の浅鉢（図53-184）と同型式のものが板付Ⅳ段階に認められるのである。このように、板付Ⅳ段階と宇木汲田貝塚の夜臼Ⅱb式新段階は、様式的に類似し、かつ広域編年の鍵である同一型式の浅鉢を共有することからも、同一時期とすることができる。したがって、福岡平野で板付Ⅰ式が成立した板付Ⅳ段階には、宇木汲田貝塚には板付Ⅰ式は広がっていない。続く板付Ⅴ段階において、板付Ⅰ式が唐津平野に拡散していることを示している。

以上をまとめるならば、宇木汲田貝塚すなわち唐津平野においては、江辻SX-1段階では瀬戸内・近畿地域から拡散した刻目突帯文土器深鉢が定着しておらず、黒川式系の深鉢が主体であった。その後、夜臼Ⅰ式段階になり、刻目突帯文土器深鉢が黒川式系深鉢に代わって主体となる。こうした段階に山形土偶も近畿地域から新たに拡散してきたのであろう。一方で、同時期には朝鮮半島南部の無文土器文化の系統として壺と板付祖型甕が成立する。さらに同時期に、コメやアワ・キビといった穀物農耕が伝来している。夜臼Ⅰ式のⅨ層が貝塚とコメやアワ・キビといった栽培穀物とが混在した文化層であった。続くⅨa層は、下層の貝塚層であるⅨa層を巻き込みながら再堆積したもので、Ⅸ層そのものは夜臼Ⅱa式と夜臼Ⅱb式の時期の堆積物である。この時期は夜臼Ⅰ式以来の板付祖型甕が在地的に縄文系深鉢と折衷化していく（藤尾1991・2009）。さらに刻目帯文深鉢も在地的に変化し、唐津平野の在地化した夜臼Ⅱb式に変化していく（横山・藤尾1986、藤尾1991）。夜臼Ⅱb式新段階には、福岡平野で板付Ⅰ式が成立するが、表7に示すように、唐津平野には一段階遅れて流入することが、宇木汲田貝塚における土器型式の出現時期の層位差において明らかとなったのである。

## 参考文献

- 泉拓良1990「西日本凸帯文土器の編年」『文化財学報』第8集、55-79頁  
井上繭子1993「西日本の土偶」『古文化談叢』第29集、21-53頁  
粕屋町教育委員会1998『江辻遺跡 第4地点』（粕屋町文化財調査報告書 第14集）  
中園聡1994「弥生時代開始期の壺形土器－土器作りのモーターハビットと認知構造－」『日本考古学』第1号、87-101頁



- 中間研志1985「紡錘車の研究—我国稲作農耕文化の一要因としての紡織技術の展開—」『石崎曲り田遺跡—Ⅲ—』（今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第11集）福岡県教育委員会、105-160頁
- 端野晋平2018『初期稲作文化と渡来人—そのルーツを探る—』すいれん舎
- 藤尾慎一郎1991「水稻農耕と突帯文土器」『横山浩一先生退官記念論文集Ⅱ 日本における初期弥生文化の成立』187-270頁
- 藤尾慎一郎2009「板付Ⅰ式土器を創ろうとした村、創れた村、創れなかった村」『弥生時代の考古学2 弥生文化誕生』同成社、105-113頁
- 宮地聡一郎2004「刻目突帯文土器の成立（上）（下）」『考古学雑誌』第88巻第1号・第2号、1-32・38-52頁
- 宮地聡一郎2007「西からの視点「逆く」字形浅鉢の成立と展開」『第8回関西縄文文化研究会 関西の突帯文土器発表要旨集』127-134頁
- 宮地聡一郎2008「凸帯文系土器（九州地方）」『小林達雄先生古稀記念企画 総覧 縄文土器』弘・プロモーション、806-813頁
- 宮本一夫2011「板付遺跡・有田遺跡からみた弥生の始まり」『新修 福岡市史 資料編考古3 遺物からみた福岡の歴史』福岡市史編集委員会、3-89頁
- 宮本一夫2017『東北アジアの初期農耕と弥生の起源』同成社
- 宮本一夫2018「弥生時代開始期の実年代再論」『考古学雑誌』第100巻第2号、1-27頁
- 横山浩一・藤尾慎一郎1986「宇木汲田遺跡1984年度調査出土土器について—一刻目突帯文土器を中心に—」『九州文化史研究紀要』31、59-101頁